週刊 YEAR BOOK

1964 昭和39年 日録20世紀

2|25
平成9年2月25日発行
(毎週1回発行)第1巻第2号
¥550
講談社

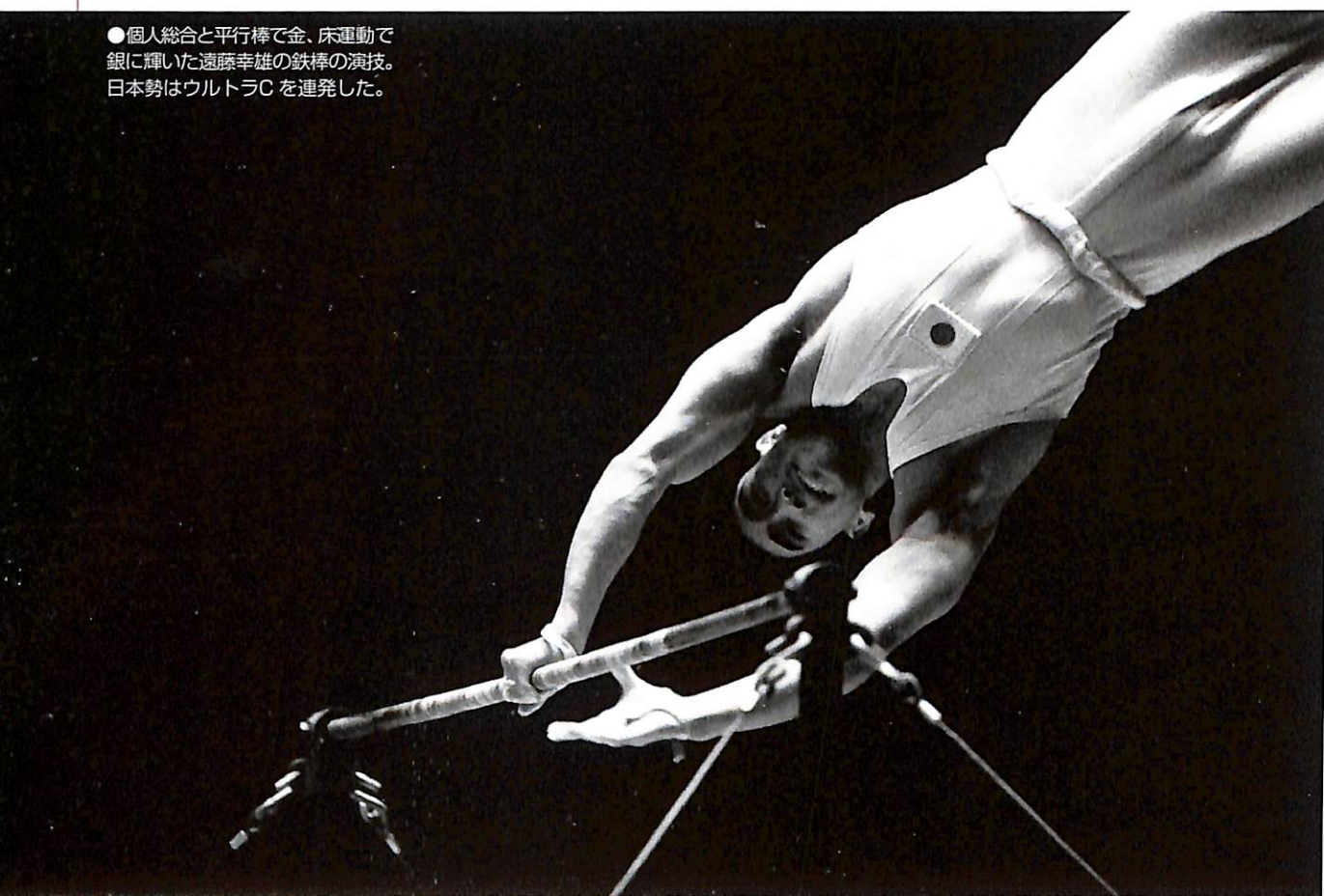
新潟地震でわかった産業都市の"もろさ"
大量・高速輸送時代!「ひかり」4時間で走る
キング牧師、35歳でノーベル平和賞

NIPPON

東京オリンピック開催!

金16、銀5、銅8の大健闘！
東京五輪で日本勢を支えた秘密

OECD（経済協力開発機構）加盟、海外旅行自由化、東海道新幹線開通など、
敗戦からの奇跡の復活を象徴する出来事が相次いだ昭和39年、その総仕上げともいうべき
第18回オリンピック東京大会が10月10日から開催され、日本中が熱狂の渦に包まれた。

●個人総合と平行棒で金、床運動で銀に輝いた遠藤幸雄の鉄棒の演技。日本勢はウルトラCを連発した。

朝日新聞社

新記録ラッシュの〝三〇億ドル五輪〟

アジア初のオリンピックとなった東京大会の参加国は大会史上最多の九四ヵ国、参加選手・役員は七四九五人を数えた。日本のオリンピック関連総投資額は、開催までの七年間で一兆円を超え、空前の規模に諸外国は〝三〇億ドルのオリンピック〟と驚嘆した。だが、その八割は新幹線、高速道路、地下鉄などの交通網の整備にあてられた。日本が先進国の仲間入りをはたしたことをアピールするとともに、首都圏の過密化をこの機会に打開するのが国家的目的とされたのだ。

「東京オリンピックで最大の成果は、視覚デザインと建築、それに記録映画だ」

大会のシンボルマークをデザインした亀倉雄策は、そう断言する。デザイナーや建築家などが総力を結集し、日本人のデザイン力の高さを内外に示した。

競技内容も充実していた。一八七のオリンピック新記録と四〇の世界新記録が生まれ、陸上と水上のほとんどの種目でオリンピック記録が塗り替えられた。

なかでも、陸上一〇〇メートルで追い風参考記録ながら〝一〇秒の壁〟を破ったアメリカのヘイズ、マラソン二連覇をとげたエチオピアのアベベ、競泳で四個の金メダルを獲得したアメリカのショランダーらの姿は、多くの人々に感銘を与えた。

〝東洋の魔女〟大活躍に視聴率八五パーセント

その中で日本選手の活躍も目立った。

重量挙げでは、フェザー級の三宅義信が世界新記録で金メダルに輝き、参加選手七人全員が入賞。レスリングでは、五階級で金を獲得した。

体操男子は、前大会に次いで団体で優勝したほか、個人でも、総合で遠藤幸雄が金、鶴見修治が銀、種目別で金と銀各三と、〝体操王国・日本〟をあらためて世界に認めさせるに十分なものだった。

この大会から新種目に加えられた柔道では、無差別級決勝で神永昭夫がオランダのヘーシンクに敗れたほかは、三階級とも順当に優勝して面目を保った。

そして女子バレーボールでは、〝東洋の魔女〟が宿敵ソ連を倒した。

◎表紙　宿敵ソ連を破って優勝、大松監督を胴上げする日本女子バレーの選手たち。　朝日新聞社

●日本女子バレーの表彰式で、東都知事と握手をかわす河西昌枝主将。　フォート・キシモト

金16、銀5、銅8の大健闘！
東京五輪で日本勢を支えた秘密

日本のオリンピック・メダル数（●＝金メダル、●＝銀メダル、○＝銅メダル）

年	大会	金	銀	銅
1912年（大　元）	第 5 回・ストックホルム（日本初参加）			
1916年（大　5）	第 6 回・ベルリン（第1次世界大戦のため中止）			
1920年（大　9）	第 7 回・アントワープ		●●	
1924年（大13）	第 8 回・パリ			○
1928年（昭　3）	第 9 回・アムステルダム	●●	●●	○
1932年（昭　7）	第10回・ロサンゼルス	●●●●●●●	●●●●●●●	○○○○
1936年（昭11）	第11回・ベルリン	●●●●●●	●●●●	○○○○○○○○○○
1940年（昭15）	第12回・東京（日中戦争のため中止）			
1944年（昭19）	第13回・ロンドン（第2次世界大戦のため中止）			
1948年（昭23）	第14回・ロンドン（日本参加できず）			
1952年（昭27）	第15回・ヘルシンキ	●	●●●●●●	○○
1956年（昭31）	第16回・メルボルン	●●●●	●●●●●●●●●●	○○○○○
1960年（昭35）	第17回・ローマ	●●●●	●●●●●●●	○○○○○○○
1964年（昭39）	第18回・東京	●●●●●●●●●●●●●●●●	●●●●●	○○○○○○○○
1968年（昭43）	第19回・メキシコシティ	●●●●●●●●●●●	●●●●●●●	○○○○○○○
1972年（昭47）	第20回・ミュンヘン	●●●●●●●●●●●●●	●●●●●●●●	○○○○○○○○
1976年（昭51）	第21回・モントリオール	●●●●●●●●●	●●●●●●	○○○○○○○○○○
1980年（昭55）	第22回・モスクワ（日本ボイコット）			
1984年（昭59）	第23回・ロサンゼルス	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●	○○○○○○○○○○○○○○
1988年（昭63）	第24回・ソウル	●●●●	●●●	○○○○○○○
1992年（平　4）	第25回・バルセロナ	●●●	●●●●●●●●	○○○○○○○○○○○
1996年（平　8）	第26回・アトランタ	●●●	●●●●●●	○○○○○

「この時の日本国内のテレビ視聴率は八五％に達したと言われ、優勝の瞬間の前後は、東京都内では電話をする人がいなかった」（日本オリンピック・アカデミー編『オリンピックものしり小事典』）ほどの熱狂ぶりだった。

このほか、一万メートル六位、マラソン三位の力走を見せた円谷幸吉の健闘が光った。

選手強化費用二〇億円で科学的トレーニングを開発

日本は金一六、銀五、銅八をとり、金ではアメリカ三六、ソ連三〇に次ぐ第三位で開催国の名誉を守った。日本が大躍進した秘密は何だったのか。

それは、開催五年前から始められた選手強化運動によるところが大きい。この大会のために二〇億円という予算が組まれ、徹底した科学的トレーニングが実施された。この五ヵ年計画の柱は、①コーチ制度導入と充実、②トレーニング理論と方法論の確立、③トレーニングの場所と用具整備の三点だった。

そのため、コーチ会議やスポーツ科学研究委員会、国際交流、合宿委員会、トレーニング・センター委員会などの機能的な体制が整備され、外国から招いた講師も、スポーツ哲学から、生理学、トレーニング方法にいたるまで幅広く、C・ディーム教授（現・ドイツ）をはじめとする特別講師は一一人にもおよんだ。

従来の、競技ごとの個人的経験だけを頼りにした練習方法も大きく変わり、基礎体力の測定や筋力アップなど、科学的トレーニングが実施されたのである。

こうした基礎的な訓練をベースに、各競技の指導者独自のユニークな強化策も取り入れられた。

その典型が、「おれについてこい」で知られる女子バレーボールの大松博文監督だった。一年を通じた合宿でチームの〝和〟を育て、優勝へと導いた。ハード・トレーニングの成果の代名詞のように言われる回転レシーブも、実はいかに速くボールに到達し、体勢を立て直せるかを考えた、大変合理的、科学的なものであった。

こうして、指導者・コーチ・科学者が一体となった大会は、大きな成果をもたらした。まさに、その後の日本のスポーツレベルを向上させる基礎を築いた輝かしい大会であった。

▼東京オリンピックは、デザイナーや建築家などの総力を結集した大会でもあった。まずシンボルマークはコンペが行われ、亀倉雄策の案が採用された。ほかにもポスターは亀倉、聖火トーチランプ・ホルダーは柳宗理、招待状・賞状などは原弘、関係者バッジは河野鷹思、記念メダルは岡本太郎ら、そうそうたるスタッフがあたった。下はポスター。2点とも亀倉のデザインで撮影は早崎治。左は昭和36年作でオリンピックのポスターとして初めて写真が使われた。右は昭和37年作。

毎日新聞社

◀「記録男」の異名をとる三宅義信はジャークの三回の試技で三回とも世界記録を更新、圧勝した。

朝日新聞社

▲10月23日、駒沢屋内球技場で行われた女子バレーの決勝戦で、日本がソ連を破って優勝した瞬間。

◀レスリングのフリースタイル・バンタム級で優勝の上武洋次郎。レスリングでは計5個の金メダル。

朝日新聞社

▼「東京五輪の華」、チェコスロバキアのチャスラフスカ。個人総合、平均台、跳馬で金メダル。

フォート・キシモト

▶エチオピアのアベベは、2時間12分11秒2のタイムで、オリンピック史上初のマラソン2連覇。

朝日新聞社

新潟地震

鉄筋アパート横倒し、津波に大火！ 露呈した産業都市の"もろさ"と恐怖

昭和三九年六月一六日、午後一時一分四〇秒。新潟市の北方にある粟島付近の海底を震源とするマグニチュード七・五の大規模地震が発生。市内の水道管、ガス管、下水道がズタズタに切断され、全市が停電。都市機能は完全に麻痺した。

経済成長に追いつかない産業都市の基盤の弱さ

被害の最も大きかった新潟市内では二五〇もの鉄筋ビルが傾き、鉄筋四階建ての県営アパートが横倒しとなった。また、同年五月、信濃川に完成したばかりの昭和大橋が崩落。海底地震につきものの津波は、全部で一〇波を数え、最大で高さ二・三四メートルにも達した。信濃川の防潮堤損壊、地層の流動化による地下水噴出も重なり、市街地の三分の一が浸水、海抜ゼロメートル地帯は半月以上泥海と化した。

被災者は、新潟県をはじめ、山形県、秋田県を含めて八万六〇〇〇人を超え、死者二六人、負傷者四四七人を出した。また、一部破損を含む家屋の損壊は約七

●昭和石油新潟製油所のマンモスタンク火災で、付近の住宅360棟余が類焼した。写真は6月17日午後、黒煙の中を避難する付近の住民たち。

毎日新聞社

新潟地震

鉄筋アパート横倒し、津波に大火！ 露呈した産業都市の〝もろさ〟と恐怖

万六〇〇〇戸にもおよんだ。

新潟地震の特色は、産業都市共通のもろさを露呈したことだった。日本の都市の大多数は、沖積層上部の砂層の上に築かれている。砂層は急激に圧力が加わると、液状化・流動化する性質がある。事実、横倒しになった県営アパートをはじめ、被害の多かったのは信濃川河畔の旧河床を開発した埋め立て地だった。

池田忠/共同通信社

▼旧市内ただひとつの団地、川岸町の県営アパートでは、1棟が根こそぎ倒れ、1棟は大きく傾いた。入居者はすばやく避難したため、死傷者は出なかった。

▲半月前に完成したばかりの昭和大橋（写真手前）は崩れ落ち、付近の舗装道路には地割れが縦横に走った。後方の噴煙は、昭和石油のタンク火災によるもの。

共同通信社

阪神・淡路大震災でも再び液状化現象の悪夢

この年、昭和電工川崎工場のプロピレン・オキサイドのタンク爆発をはじめ、全国で化学工場の爆発事故が相次ぎ、その被害者は一年間で二三四人にも達していた。高度経済成長の速度に、化学工場の安全管理が追いつかないのが原因だった。このことは、新潟地震の被害を、さらに拡大することになった。

まず、地震発生直後に、東臨海町の昭和石油新潟製油所新工場原油タンクから出火。原爆のキノコ雲を思わせる黒煙が空をおおった。夕刻には、近接の旧工場と三菱金属鉱業の境界付近にも引火。臨港町、平和町、船江町まで広がった火は、三六〇棟余の民家に類焼。さらに、タンク八〇基以上を焼き尽くし、実に三五〇時間を経てようやく鎮火した。市内の都市機能が完全に復旧するまで半年あまりを費やした。

平成七年に起きた都市型の地震、阪神・淡路大震災でも、ポートシティなど埋め立て地の被害は甚大で、耐震構造のビルも液状化現象により倒壊。新潟地震の悪夢が、再び繰り返されたのである。

女たちの肖像　稲葉真弓

ベストセラー『氷点』と主婦・三浦綾子

昭和三九年七月一〇日、朝日新聞社の一〇〇〇万円懸賞小説に『氷点』が決まった。作者は、北海道・旭川市に住む主婦・三浦綾子（四二）であった。

既成作家の作品を含む七三〇篇の中から選ばれた『氷点』は、キリスト教の〝原罪〟をテーマにしたもので、妻の不倫、子供の死、継子いじめなど戦前の家庭小説の型を踏襲しつつも、評論家の江藤淳に「文壇小説への挑戦」といわしめたほどインパクトがあった。

『氷点』は、同年一二月九日から連載が始まり、翌昭和四〇年一一月一四日最終回を迎えた。この間読者から届いた手紙は数千通、中には「（主人公の）ヨウコハシンデハナラナイ」という電報まで届いたというから、いかに多くの人の関心と共感を呼んだかがわかる。

その反響の大きさをものがたるように『氷点』はテレビドラマや映画になり、ことにテレビでの放映が始まると「氷点時間」といって女風呂はガラ空き、旭川では「氷点まんじゅう」まで現れるブームになった。

新聞連載の終わった翌日発売された単行本も、一年半で七〇万部を突破した。

プロ作家をおさえて大ベストセラーを生んだ三浦綾子は、大正一一年生まれ。昭和一四年旭川市立高等女学校を卒業後小学校で教鞭をとっていたが、肺結核から脊椎カリエスを併発、一三年間にわたる闘病生活を送り、そのうちの七年間は仰向けのままギプスベッドに固定されるという日々を余儀なくされた。この間にクリスチャンになったが、身動きならぬ凄絶な闘病生活が想像力を鍛え、ベッドの中で様々な小説のプロットを思い描いて飽きなかったという。

『氷点』執筆時は、闘病生活時代に知り合った旭川営林局勤務の三浦光世と結婚、旭川市内で小さな雑貨店を営んでいた。朝早くから夜遅くまで、客は時をかまわずにやってくる。そのため執筆は店を閉めた夜一〇時以降。カリエスの後遺症のため枕を胸にあてて一〇〇〇枚を書き続け、それを夫の光世が読んでは感想を述べた。受賞時「私は雑貨屋のおばさん」と称していた三浦綾子は、その後『続・氷点』『積木の箱』など信仰に基づいた作品を次々と世に送り出した。

昭和五七年直腸ガンに冒されたが、光世の介助を受けつつ執筆活動を続けている。

朝日新聞社

勝者・敗者　阿部珠樹

居合い三年の練習漬け王貞治、五五本目の本塁打

読売ジャイアンツの一塁手、王貞治は、九月二三日、後楽園球場でのペナントレース最終戦で、大洋ホエールズの佐々木吉郎から、このシーズン五五本目となるホームランを放った。しかし、すでに阪神タイガースのリーグ優勝が決まり、また、一七日後には東京オリンピックの開幕が迫っていた時点で飛び出したこのホームランには、特別な反響はなかった。

すでに王は、九月六日、同じホエールズの峰国安からシーズン五三本目のホームランを放ち、南海ホークスの野村克也の持つシーズン記録を更新していた。騒ぎはこの時の方がはるかに大きかった。

早稲田実業から大きな期待を一身に集めてジャイアンツ入りした王は、最初の三年間、思うような成績が残せず苦しんだ。「王、王、三振王」とあざけられ、銀座のクラブで憂さを晴らすようなこともあった。しかし、入団四年目のシーズン中、打撃コーチ・荒川博の指導を受けて一本足打法に改造し、ホームラン打者としての王道を歩み出す。

荒川によると、一本足打法に改造してから三年間は、「朝五時に自宅を出て、居合いの稽古、それからウチに来て球場入りするまで素振り、ナイターが終わったあともウチに来てバットを振り、食事をして自宅に帰る」という生活を続けたという。五五本のホームランも、そうしたすさまじい練習の中から生み出されたものだった。

この年二四歳だった王には、将来ロジャー・マリスの持つシーズン六一本の世界記録更新の期待もかけられた。しかし、その後、二度五〇本台を記録したものの、相手投手の四球攻めもあり、ついにこの年の記録を更新することはなかった。ちなみにマリスが六一本打った年の四球は九四個、王がのちに五〇本台を記録した年のそれは一二四個、一二六個、いかに王が勝負してもらえなかったかがわかる。ジャイアンツの若きスラッガー、松井秀喜の背番号「55」は王の大記録にちなんだものである。

日刊スポーツ

時事通信社

◀ロバート・ケネディ、早大訪問（1月18日）前年、早大で行われた故ケネディ前大統領の追悼講演会に対し謝辞を述べ、6000人の学生が「都の西北」の大合唱でこれにこたえた。

読売新聞社

▲連続殺人犯逮捕（1月3日）特別手配中の西口彰が熊本県で逮捕された。西口は前年以来、全国で窃盗・詐欺を繰り返し、その間、5人を殺害。昭和41年に死刑が確定した。

WWP

▲約500年ぶりの歴史的会見（1月5日）ローマ法王パウロ6世（右）とギリシャ正教会総主教アテナゴラスがエルサレムで、1439年以来初めて会談した。

▼東京五輪の開・閉会式入場券抽選会（1月22日）東京の日比谷公会堂で行われ、約355万枚の中から当選番号が決められた。競争率はざっと60倍だった。

日刊スポーツ

共同通信社

◀周鴻慶亡命事件（1月9日）訪日後に亡命を求めていた中国人通訳・周鴻慶が結局、本国へ帰国。これに対し台湾政府は大使館員引き揚げなどの抗議を行った。

昭和39年1月

1（水）●明治神宮、テレビカメラで初詣客を整理。
2（木）●福岡県下山田鉱の落盤事故で生き埋めになった三人が、九一時間ぶりに救出される。
3（金）●連続殺人犯・西口彰、熊本県玉名温泉で逮捕。
4（土）●立川駅で米軍用タンク車が電車に衝突、炎上。
5（日）●NHK、大佛次郎原作「赤穂浪士」の放映開始。
6（月）●神戸市の百万講（頼母子講）が加入者増で破綻。
7（火）●閣議、戦没者の叙位叙勲基準を決定。
8（水）●日本医師会の反武田派約五〇〇人が初の集会。
9（木）●赤瀬川原平、千円札複製作品につき模造容疑で取り調べを受ける（40年11月起訴）。
●亡命事件（前年10月）の周鴻慶、中国へ帰国。
●前月二〇日以来開放のベルリンの壁が再封鎖。
10（金）●日銀、新窓口規制で都銀に貸出し抑制を要請。
11（土）●姫路市の谷外農業協同組合の女性出納係が、約二九〇〇万円横領の容疑で逮捕される。
12（日）●陸上自衛隊、新宿で救助訓練を公開する。
13（月）●東京千代田区の下水道工事で電話ケーブルが切断され、約一万八〇〇〇回線が不通に。
14（火）●東京地検、力道山刺殺事件（前年12月）で興業社社員の容疑者を傷害致死などで起訴。
15（水）●建築基準法改正、施行。ビルの高さ制限撤廃。
16（木）●米軍機が神奈川県座間町の畑に墜落して炎上。
17（金）●八丈島で竜巻。全半壊四七戸、負傷一八人。
18（土）●同盟会議、初の『賃金白書』を発表する。
19（日）●社会党、F105D爆撃機配備阻止集会開く。
20（月）●ベルギーのボードワン国王が来日する。
21（火）●大牟田市三池三川鉱、七三日ぶりに採炭再開。
22（水）●運輸省、初の『交通事故白書』を発表する。
23（木）●隅田川の出初め式で、ジェット消防艇初公開。
24（金）●大蔵省が三九年度予算で、気象庁のスモッグ対策費の要求を認めず、と新聞に。
25（土）●宝塚歌劇団、五〇周年で物故者慰霊祭を開催。
26（日）●和歌山市で開催中の世界国旗巡回展の中国国旗展示に右翼が抗議したため、会期残し閉幕。
27（月）●厚生省、肺癌対策打ち合わせ会議を開催。紙巻きタバコとの関連を調査する必要を指摘。
28（火）●茅野市の白樺湖ユースホステルで、宿泊客八人が石油ストーブの不完全燃焼で中毒死。
29（水）●第九回冬季オリンピック、オーストリアのインスブルックで開催。三六ヵ国が参加。
30（木）●北陸本線の親不知トンネルで貫通式を挙行。
31（金）●三八年の四輪車輸出台数は、前年比約四七％増の一〇万弱で過去最高、と自動車工業会。

ニュース・ファイル

1964

フォト＋日録で再現する366日

一〇月の東京オリンピックを頂点に、昭和三九年は日本が国際化へ大きく踏み出した年といえよう。伝統的国技である大相撲にアメリカ人、後の高見山が加わったのはその象徴的事件だった。一方、新幹線など、国際化を支える高度成長の神話は持続していた。

◀アメリカ人初の力士誕生（2月22日）米国ハワイ州出身のジェシー・クハウルア。高砂部屋に入門、身長196センチ、体重126キロ。3月4日、新弟子検査に合格、9日に初土俵を踏んだ。後の高見山（現・東関親方）である。

毎日新聞社

WWP

▲カシアス・クレイ、ヘビー級王座に（2月25日）圧倒的不利の予想をくつがえし、チャンピオンのリストンを7回TKO。「蝶のように舞い、蜂のように刺す」華麗な動きが目立った。

共同通信社

▶大相撲ハワイ入り（2月5日）渡米の48人がホノルルに到着。翌日から5日間の「ハワイ場所」を開催。歓迎される大鵬（中央）と柏戸（右奥）。

▼吉田元首相、蔣介石と会談（2月24日）台湾訪問中の吉田茂元首相が蔣介石総統を訪れ、池田首相の親書を手渡し、周鴻慶事件などで冷たくなった両国の関係改善につとめた。

WWP

朝日新聞社

▲銀座松屋で火事（2月13日）午後4時近くに出火、高層ビルのため消火に手間取り、5階全部と6、7階の一部を焼いた。原因は増築工事現場からの飛び火とされた。

共同通信社

◀富士航空機が墜落（2月27日）鹿児島発の富士航空コンベア240型双発旅客機が、大分空港で着陸に失敗して墜落。乗客ら20人が死亡、22人が重軽傷を負った。

昭和39年2月

- 1（土）●国鉄、ニューヨークに戦後初の事務所を開設。
- 2（日）●国土地理院が南極の日本担当地域地図を完成。
  - ●相沢忠洋が群馬県岩宿で旧石器を発見と発表。
- 3（月）●東京都内で軽乗用車による連続六件の強盗事件。緊急配備で一六歳の高校生三人を逮捕。
- 4（火）●国産小児麻痺生ワクチンの国家検定が終了。
- 5（水）●最高裁、参院選定数訴訟で原告の上告棄却。
- 6（木）●大相撲「ハワイ場所」、ホノルルで開幕する。
- 7（金）●警視庁防犯部、あいくちの回収を業者に要望。
- 8（土）●長野県の佐久総合病院に、リハビリ施設が完備した成人病センターが完成、と新聞に。
- 9（日）●子どもを守る文化会議、国産の小児麻痺生ワクチンの安全性を懸念し使用反対を決議。
- 10（月）●加古川市の山陽本線の踏切で、トラックと準急気動車が衝突。三人死亡、二六人重軽傷。
- 11（火）●羽田空港でジェット機用C滑走路の使用開始。
- 12（水）●大平外相、中国の国連加盟が承認されれば国交正常化を考える、と国会で答弁。
- 13（木）●東京商工会議所、スーパーの進出で周辺小売店の四八%に悪影響が出ている、と発表。
- 14（金）●市川房枝ら国会議員が夜の新宿・渋谷を視察。深夜喫茶や「トルコ風呂」は不健全と批判。
- 15（土）●ILO、八七号条約（結社の自由・団結権の保護）未批准の日本へ調査団の派遣を決定。
- 16（日）●町田市で集団腸チフスが発生し一八人を隔離。
- 17（月）●米原子力委員会が派遣したコナード博士が、焼津市で「第五福竜丸」の乗組員八人を検診。
- 18（火）●主婦連、魚の切り身などの魚名詐称を鑑定。
- 19（水）●騒音による馬の流産を防ぐため、千歳市の航空自衛隊がジェット機の訓練空域を変更する。
- 20（木）●厚生省、救急病院などを定める省令を公布。
- 21（金）●ニューヨーク日本総領事館、世界博の日本館紹介で「芸者ハウス」などに訂正を要請と決定。
- 22（土）●小松島市、新聞・牛乳配達少年激励費を予算化。
- 23（日）●国鉄、座席自動予約装置の運用を開始する。
  - ●吉田茂元首相、首相親書をたずさえ台湾訪問。
- 24（月）●国語問題協、当用漢字音訓表等の撤廃を請願。
- 25（火）●衆院運輸委員会が新宿駅のラッシュを視察。
- 26（水）●最高裁、教科書の有償配布は合憲と判決。
  - ●大日本印刷を脅迫した「産業スパイ」を初摘発。
- 27（木）●大分空港で着陸時の旅客機墜落。二〇人死亡。
  - ●運輸省航空局、航空機からのビラまきを東京二三区などでは全面的に禁止と決定。
- 28（金）●中小企業庁、初の『中小企業白書』を閣議報告。
- 29（土）●日本鉄道建設公団法公布施行（3月23日設立）。

WWP

共同通信社

▶福岡県の日炭高松でガス爆発（3月30日）爆発は水巻町の日本炭鉱高松鉱業所の坑道入り口から約3000メートルのところで起き、爆風で吹き飛ばされた8人全員が、遺体で収容された。

◀アラスカで大地震（3月27日）アンカレジ市などに大被害をもたらし、死者は117人にも達した。写真は大破したアンカレジ市内の5階建てビル。

時事通信社

◀ライシャワー米大使襲われる（3月24日）東京・赤坂の米国大使館裏玄関で19歳の少年に右ももを刺された。大使はこの時の輸血がもとで血清肝炎になり後遺症に苦しんだ。写真は虎の門病院の大使とハル夫人。

▼地下鉄日比谷線の霞ケ関—恵比寿間が開通（3月24日）この開通で、恵比寿で山手線と、霞ケ関で地下鉄丸ノ内線と接続した。写真は開通式でテープカットする牛島交通営団総裁。

▼東京・深川で小判騒動（3月13日）有明町の埋め立て地の土砂から、中学生が時価7万円の慶長小判を発見。以来、40枚近くが見つかり、係員の制止をよそに現場は大混雑した。

共同通信社

▲「太った豚より、やせたソクラテスたれ」（3月28日）東大総長・大河内一男の卒業式の告辞として各紙が紹介したが、式場では読み落としていた。写真は謝恩会の大河内総長。

読売新聞社

帝都高速度交通営団提供

昭和39年3月

- 1（日）●ビキニ被災一〇周年集会、社共で分裂開催。
- 2（月）●東海道新幹線のモデル区間（鴨宮—小田原間）で、営業用電車の試運転が行われる。
- 3（火）●神奈川県警、米兵横流しの武器を売買した暴力団員らを逮捕。小銃などを押収する。
- 4（水）●大相撲高砂部屋に入門したハワイ出身のジェシー（後の高見山）、新弟子検査に合格。
- 5（木）●戒能通孝、岩手県の入会権をめぐる小繋事件裁判で農民弁護のため、都立大教授を辞任。
- 6（金）●曾根崎署員が停車命令無視の運転手を射殺。
- 7（土）●警視庁、七億円の手形偽造ブローカーを逮捕。
- 8（日）●安中市で合宿中の日大生が赤痢。二九人隔離。
- 9（月）●韓国の全野党と各界の代表者らが、対日屈辱外交反対全国民闘争委員会を結成する。
- 10（火）●調布飛行場で人工降雨実験行われる（失敗）。
- 11（水）●警察庁、犯罪の広域化に対処し、捜査のスピードをあげるためコンピュータ室を設置。
- 12（木）●厚生省が国産小児麻痺生ワクチン公開説明会。
- 13（金）●東京・深川の埋め立て地で、慶長小判発見。
- 14（土）●文部省、『道徳の指導資料』を全国に配布。
- 15（日）●東京で「全国進行性筋萎縮症児親の会」結成。
- 16（月）●千葉県で初のマークシート方式のテスト実施。
- 17（火）●東京五輪予算は、七一億九三七七万円と判明。
- 18（水）●日銀、公定歩合を日歩二厘に引き上げる。
- 19（木）●自然公園審議会、日光杉並木の一部伐採是認。
- 20（金）●京都大博覧会開幕。防衛庁が兵器を出展する。
- 21（土）●東京で、国立初の小児専門病院の起工式。
- 22（日）●「ミロのビーナス」が横浜港に到着する。
- 23（月）●UNCTAD（国連貿易開発会議）第一回総会。
  - ●那覇市で不当解雇反対の組合員が、高さ三三メートルの煙突上で座りこみ開始（〜5月15日）。
- 24（火）●ライシャワー米大使、少年に右脚を刺される。
- 25（水）●国際電電、初の米国へのテレビ生中継に成功。
- 26（木）●東京交響楽団、経済的困難を理由に財団法人を解散（3月31日に有限会社として再発足）。
- 27（金）●東大病院で初の腎臓移植成功（4月6日死亡）。
  - ●筑豊炭田最大の三井田川鉱業所が閉山式。
- 28（土）●茨城県東海村の動力試験炉で、蒸気漏れ事故。
- 29（日）●名鉄新名古屋駅で追突事故。一五〇人重軽傷。
- 30（月）●東京都、環状八号線建設用地で立ち退き拒否の家屋を強制取り壊し。五輪道路では初。
- 31（火）●政府、四月一日からカラーテレビなど八品目の輸入自由化を決定（自由化率約九三%に）。

▲米軍ジェット機が商店街に墜落(4月5日)東京・町田市の住民ら4人死亡、27人が重軽傷、商店17軒が全半壊した。米軍機墜落はこの後も相次ぎ、39年中に15機にもおよんだ。

▲「木島則夫モーニングショー」開始(4月1日)NETテレビが土・日をのぞく朝8時30分から放送。木島とその右に井上加寿子、栗原玲児。

▶海外旅行自由化第1陣が出発(4月6日)初の観光目的による海外渡航者は16人。イタリアの航空機で羽田空港からヨーロッパに飛び立った。

◀アブシンベル神殿引っ越し(5月頃)新アスワンダム建設によって水没するため、古代エジプト遺跡を守れと、世界47ヵ国が移設に協力。

▶最後の中国戦犯帰国(4月7日)中国・撫順の収容所に抑留されていた元陸軍少将ら3人が帰国、羽田空港で妻子と再会。これで、中国関係の戦犯1150人(40人死亡)すべてが釈放された。

◀公労協の半日スト中止(4月16日)総評の公共企業体職員の給与改善など6項目の要求に、池田首相が努力すると答えてスト中止に。写真は笑顔のトップ会談。池田首相(左)と太田議長(中)。

昭和39年4月

1(水)●日本、IMF(国際通貨基金)八条国に移行。
●一人一年五〇〇ドル以内で海外旅行自由化。
●NET「木島則夫モーニング・ショー」始まる。

2(木)●雑誌「近代文学」が一八五号で終刊、と発表。

3(金)●東芝、静止画テレビ電話「ビューフォン」発表。

4(土)●文化財保護委、国立劇場建設の概要を発表。

5(日)●米軍のF8戦闘機が町田市の商店街に墜落。
●熊本県、下筌ダム建設予定地の収用を採決、国有地とする(住民反発、蜂ノ巣城事件へ)。

6(月)●NHKで「ひょっこりひょうたん島」放映開始。

7(火)●中国撫順収容所抑留の最後の戦犯三人が帰国。
●鐘淵紡績に西独の男性化粧品技術の導入認可。

8(水)●国立西洋美術館で、フランス以外では初めての「ミロのビーナス」展が始まる。

9(木)●ビタミンなど加えた加工乳が人気、と新聞に。

10(金)●中国経済貿易展覧会が東京・晴海で開かれる。

11(土)●第七回大阪国際フェスティバルが開幕する。

12(日)●東京12チャンネル、正午に開局する。

13(月)●地婦連など、都知事らに売春防止強化を要望。

14(火)●東京都、都政参与に犬養道子ら四人を決定。

15(水)●日本航空、東京—ソウル間の定期路線を開設。
●航空三社が合併して日本国内航空を創立。

16(木)●予防接種法改正で小児麻痺生ワクチンを採用。
●池田首相と太田総評議長、官民給与格差是正などで合意。公労協の一七日のストは中止。

17(金)●東京五輪記念メダルが全国一斉に発売される。

18(土)●岡崎市教育委員会、流行している菓子景品ワッペンの学校持ちこみを禁止するよう指示。

19(日)●第九回働く婦人の中央集会、社共が分裂開催。

20(月)●趣味の一〇円切手「源氏物語絵巻切手」が発売され、東京中央郵便局では五〇〇〇人が行列。

21(火)●羽田空港の拡張工事が終了し、完成式。

22(水)●帝国石油が一三〇〇人の整理案を労組に提示。

23(木)●日本道路公団、東名高速道路の建設用に世界銀行と五〇〇〇万ドルの借款契約に調印。

24(金)●スリ捜査強化月間で逮捕者は五〇〇人を超す。

25(土)●第一回戦没者叙勲(一万一七七人)を発令。

26(日)●国立科学博物館が初の完全な恐竜骨格を完成。

27(月)●東京地裁、学生運動で採用拒否は違憲と判決。

28(火)●日本、OECD(経済協力開発機構)に加盟。
●若者向け週刊誌「平凡パンチ」創刊。

29(水)●生存者叙勲が一八年ぶりに復活する。

30(木)●高知県高校長協会総会、非行防止のためボクシング・空手のクラブ活動禁止の方針を決定。

証言・あの日この日
高見 順

4月21日(火) 〈「東京新聞」夕刊「筆洗」によると、きのう売り出された源氏物語「やどり木」の記念切手は、それを買うため中央郵便局に1万近い人々が行列をつくり、そして発売開始30分で売り切れたと言う。郵政省では2800万枚を発行、実際は半分以上がすでに「切手業者」の手に渡り、好事家に10倍近い値で売られる〉(『高見順日記』)

1960年代に入って、東京オリンピックの記念切手発行を機に、時ならぬ切手ブームが巻き起こる。大人たちは投機目的で、そして子どもたちはクラスの仲間に負けないために。少年雑誌の特集記事や広告が、その気持ちに拍車をかける。国をあげてのイベントに記念切手はつきものだけれど、このブームも、1970年代に入ると、急速にしぼんでいく。 (坪内祐三)

▲干拓工事中の八郎潟堤防に亀裂(5月7日)青森県西方沖を震源とするM6.9の地震で約10キロが沈下し亀裂が入った。設計段階での地震対策の不備が問題となった。

▲新丹那トンネル開通式(5月27日)「夢の超特急」が日本最長のトンネル(7958.6メートル)を抜けた。10月の東海道新幹線開業に向け確実な歩み。

▼新二重橋が竣工(5月28日)平井敦東大教授の設計で、長さ25.5メートル、幅10メートルの鉄橋。この日、高松宮を先頭に渡り初めが行われた。

▲慶大の渡辺泰輔が完全試合(5月17日)東京の神宮球場で行われた慶大対立大戦で東京六大学野球史上初の快挙。写真はガッツポーズをとる渡辺投手。

◀浩宮、ママと遠足(5月22日)学習院幼稚園の東京・小石川植物園への遠足に美智子妃と参加。バスケットの中には好物ののり巻き弁当が入っていた。

昭和39年5月

1(金)●風俗営業等取締法改正公布(8月1日施行)。

2(土)●炭労、賃上げ中労委斡旋案を受諾。スト中止。

3(日)●日産ブルーバード、四月に国産車として初めて月産一万台を突破した、と広告を掲載。

4(月)●精神神経学会、精神衛生法改正案反対を決議。

5(火)●日本文芸家協会、新聞社・出版社など二五〇社に原稿料の値上げを文書で申し入れる。
●トルーマン元米大統領、訪米の被爆者と会見。

6(水)●鐘淵紡績が男子の五五歳定年制廃止を宣言。

7(木)●青森県西方沖を震源にM六・九の地震が発生。

8(金)●全日空、ボーイング727型機を公開飛行。
●山梨県忍草入会組合、自衛隊の実弾演習に抗議し、北富士演習場監視小屋で座りこみ開始。

9(土)●宝塚歌劇団が創立五〇周年記念式典を挙行。

10(日)●日本伝染病学会、国産のはしか用ワクチンが実用段階に入ったことを認める。

11(月)●千葉大で東南アジアからの国費留学生が、女子寮の新設を求めて授業をボイコット。

12(火)●閣議、米国の要請で南ベトナム援助を了承。

13(水)●経団連、企業減税などを政府に要望。

14(木)●ミコヤン第一副首相らソ連議員団が来日。

15(金)●衆院本会議、部分的核実験停止条約の締結を賛成多数で承認する(25日参院承認、成立)。

16(土)●IMF・JC(国際金属労連日本協議会)結成。

17(日)●慶大の渡辺泰輔投手が六大学初の完全試合。

18(月)●輸血用血液の九七パーセントは「売血」、と新聞に。

19(火)●自家用機操縦試験に、一七歳の女子高生合格。

20(水)●新宿駅ビルに、テレビつきの案内板が登場。

21(木)●日本共産党、志賀義雄と鈴木市蔵を除名。

22(金)●伊丹署、「暴力飯場」に軟禁の二九人を救出。

23(土)●福島県で落雷。農作業中の四人が死亡。

24(日)●東京で竜巻が発生。民家約四七〇戸に被害。

25(月)●自治省、公務員「から出張」廃止を知事に通達。
●主婦連の三巻秋子らが消費科学センター設立。

26(火)●全国都道府県議長会、議員報酬改定時に第三者の意見を聴取することを申し合わせる。

27(水)●日銀総裁、農産物輸出の金融優遇方針を発表。

28(木)●皇居新二重橋のかけ替え工事を終え完工式。

29(金)●閣議、六大都市などの公営バスの赤字補塡で、起債・融資各三〇億円を認めると決定する。

30(土)●東京地裁、三無事件(36年12月)に破壊活動防止法を初めて適用し、有罪の判決。

31(日)●厚生省、各種医療保険間の給付格差是正をはかるための総合調整構想を発表。

昭和39年6月

1（月）●新三菱重工など三社が合併し三菱重工発足。
●国宝姫路城の解体復元工事が八年ぶりに完了。
2（火）●閣議、部分的核実験停止条約を批准する。
3（水）●茨城県警、筑波学園都市建設の土地払い下げをめぐる収賄容疑で、筑波町長を逮捕。
4（木）●全日空が北海道のすずらん五〇〇〇束を広島・長崎の原爆病院など全国の病院に贈る。
5（金）●神奈川県、全国初の公害認定基準を制定する。
6（土）●群馬県白沢村でバスが谷に転落。二人死亡。
7（日）●瀬戸内海の船上で瀬戸内総合開発懇談会開催。
8（月）●三八年の労働時間は週四八時間制の企業が減り、労働時間は短縮化の傾向、と労働省発表。
9（火）●閣議、四五年目標に日本で万博開催、と決定。
10（水）●日本私立大学連盟、学生急増対策を国に要望。
11（木）●昭和電工川崎工場で爆発事故。一八人死亡。
●北海道の三井砂川奥奈井江鉱で落盤事故。
12（金）●閣議、防衛庁を省に昇格させる法改正案決定。
13（土）●金沢刑務所などで集団赤痢。一〇九人を隔離。
14（日）●飯島秀雄が西ベルリンの国際陸上競技会で、一〇〇㍍一〇秒一の日本新記録を樹立。
15（月）●通産省、一五五品目の新ココムリストを発表。
16（火）●新潟県を中心にM七・五の地震（新潟地震）。死者二六人、家屋全半壊約七万六〇〇〇戸。
17（水）●農家の平均現金所得五〇万円余と農林省発表。
18（木）●警視庁、五輪警備に二七万人動員の基本方針。
19（金）●国際電電と米国二社が、共同敷設の太平洋横断海底電話ケーブルによる営業を開始。
●京都市で暴力行為等処罰法改正反対のデモ隊と警官隊が衝突。双方で一〇〇人以上が負傷。
20（土）●人口減が続く東京中央区で、小学校の統合に反対する住民大会が開かれる。
21（日）●労働省、「三八年賃金制度調査」結果を発表。
22（月）●東京地裁、都営地下鉄工事騒音の賠償請求訴訟で、住民側の訴えを認め、都に支払い命令。
23（火）●建設省、下筌ダム予定地「蜂ノ巣城」に代執行。
24（水）●暴力行為等処罰法改正公布（7月14日施行）。
25（木）●京大の研究用原子炉が臨界に達する。
26（金）●法務省、下山事件の他殺鑑定書などを提出。
27（土）●新潟地震のため、夏季国体を中止と決定。
28（日）●政府、小笠原諸島への旧島民の墓参を認めるように米政府と折衝する方針、と新聞に。
29（月）●総工費約九〇億円の新宮殿造営の起工式。
30（火）●警視庁、映画「白日夢」の猥褻部分削除を要請。
●刑法改正公布（7月20日施行）。誘拐に重罰。

▲蜂ノ巣城落城（6月23日）熊本県の下筌ダム建設反対闘争の拠点を、建設省がついに強制撤去。右上は最後まで籠城した「城主」室原知幸。ダムは昭和45年に完成。

▲韓国で学生デモに対し戒厳令（6月3日）軍政を敷く朴政権の退陣を要求する学生ら約2万人が、ソウル市内で警官隊と激しく争ったためで、この影響を受けて日韓会談が延期された。

◀昭和電工川崎工場で大爆発（6月11日）プロピレン・オキサイドのタンクが爆発、死者18人、重軽傷者99人を出した。写真は悲しみの遺族。

▼暴力団が白昼の銃撃戦（6月7日）松山市のビルに立てこもった暴力団矢嶋組の8人と郷田会の4人が抗争。警官隊の催涙弾攻撃で、4時間以上もたって、やっと騒ぎはおさまった。

▼広島に集中豪雨（6月27日）雨は前日夜から朝まで降り続け、床下浸水、道路冠水などの被害が相次いだ。写真は27日の広島市内横川の国道で、後方は国鉄のガード。

20世紀博物館

世界のカバン館 東京・台東区

旅行に対する意識の変化まで見てとれる

桑原茂夫

「エース」という会社（本社・大阪）は、ひとことで言うとカバン屋さんである。「ACE」のブランドマークを持つメーカーでもあるし、世界中から優れたカバンを見つけてきて、日本で販売する発売元でもある。「マジソンバッグ」のメーカーであり「サムソナイト」の発売元だといえば、ピンとくる人も少なくないのではないか。

そのエースが世界中から集めたカバンを展示しているのが「世界のカバン館」で、東京・浅草の東京店ビル八階にある。カバン屋さんの展示と甘く見るなかれ。世界三一ヵ国から約六五〇点を収集し、イタリアのカバン、ヨーロッパ各国のカバン、アジアのカバンなど、五つの部屋に分けて展示している本格派なのである。

創業者の新川柳作・現会長が初めて世界一周旅行をした折に、カバンの専門的収集・展示館がどこにもないことを知って、何とかしたいと思ったのが発端だそうで、昭和五〇年九月一日に開館の運びとなった。

世界で唯一という思いがあるだけに内容は充実していて、世界中という空間的な広がりはもとより、時代をさかのぼる時間的な広がりもここにはある。

たとえば、全財産を詰めこんでしまえるような巨大なカバンを、欧米の映画などでよく見かけるが、その実物をここで目のあたりにすることもできた。「キャビンバッグ」や「棒屋根バッグ」といった種類の大型カバンで、それぞれに長い時間の積み重ねが感じられて、しばし目をそらすことができなかった。

キャビンバッグは文字どおり、キャビン＝船室に持ちこむ、つまり長旅用のカバンで、棒屋根バッグは、カバンの上部が屋根状になっていて、その天辺が左右に大きく開くタイプ。

世界的に有名なファッションメーカー、ベネトンの会長が愛用していた棒屋根タイプのカバンが展示されているが、これは新川氏のカバンにかける情熱に惚れこんだベネトンの会長が、みずからこのカバン館のために運びこんでくれたものだそうだ。

そういえば、このように寄贈され展示されているカバンが少なくない。アントニオ猪木氏がブラジルで使っていた大型カバンや、故・渡辺美智雄氏が長年愛用していたエースのビジネスバッグ、故・吉川英治氏のスーツケース等々……。

昔の旅行のさまが彷彿と

ところで、話を大型カバンに戻すと、キャビンバッグなどのほかに、「ワードローブトランク」と称する、洋服ダンスをそのままカバンにしてしまったタイプや、東洋系の限りなく行李に近いタイプのカバンなどもあって、昔の旅行のさまを彷彿とさせられる。また一方、アルミ素材のスーツケースやサムソナイトなど最近のスマートで頑丈そうな旅行カバンが並んでいるのを見ると、歴史的にはほんのわずかな間に、旅行に要する時間や旅行に対する意識が著しく変わってきたのだなということを、実感させられるのである。

さてこのカバン館に行くには、ビルの受付でそのむねを申しこみ、エレベーターで八階まで昇ればいいのだが、館内に入るには、エレベーターホールにある電気のスイッチを自分で入れる必要がある。専従の人がいないという理由によるだけでなく、どうぞご自由に、存分にカバンと語り合ってください、ということをそれとなく示しているのかもしれない。

●世界のカバン館
東京都台東区駒形一―八―一〇　エース㈱内
☎〇三―三八四七―五五一五
都営浅草線浅草駅出口A1、徒歩一分または地下鉄銀座線浅草駅下車、徒歩五分
開館時間＝一〇時～一六時三〇分
休館日＝土・日曜日、祝日、お盆、年末・年始

▲各国製のキャビンバッグが並び、時の流れを感じさせる。

▲サムソナイトの日本における生産は、すでに1000万個に達しようとしている。写真上段中央は第1次長嶋監督時代の巨人軍が採用したエース製のサムソナイト。左は元阪神の掛布雅之選手、右はロス五輪で金メダルを取った山下泰裕選手、下段右は俳優の故・川口浩さん、左はソウル五輪選手団が、それぞれ使用していたサムソナイト。

▼エースの大ヒット「マジソンバッグ」。1960年代後半から70年代に若者に人気だったが、最近また流行し始めた。

▲ベネトンの会長が愛用していた棒屋根タイプの大型カバン。クロコダイル製。

ベストセラー
純愛『愛と死をみつめて』がメディアを動かした!

昭和三九年、出版界を席巻したのは、おおかたの予想に反して東京オリンピックものではなく、純愛ものの『愛と死をみつめて』(大和書房)だった。この年の末までに一三五万部を超え、文字どおりのミリオンセラーとなったこの本は、難病と闘う少女と、同じ病院で知り合った青年との往復書簡をもとにしており、中学生を含む若い層に圧倒的に支持された。

顔の骨がガンに冒されていく「軟骨肉腫」という難病で入院生活を余儀なくされた高校二年生の少女・大島みち子(ミコ)と、同じ病院に入院していた浪人生の河野実(マコ)との間で交わされた、真摯な、心温まる手紙は、みち子が二一歳で亡くなるまでの三年余の間に四〇〇通を超えた。死を意識しながらも精一杯の思いを傾けて交わされたこの往復書簡は、みち子の死後、昭和三八年に刊行され、この年の大ベストセラーとなった。

これを受けて日活は、当時のスーパー青春スター、吉永小百合と浜田光夫の主演で映画化、大ヒットさせた。さらに青山和子の主題歌(「マコ、甘えてばかりでごめんね……」で始まる歌)も大ヒットし、この年のレコード大賞を獲得した。

また、この年の二位『徳川家康』はすでに昭和三七年からベストセラー市場に顔を出していたが、その勢いは衰えず、この小説から新時代の処世訓を読み取ろうとする読者の支持は、根強かった。

なお、ユニークなマンガ雑誌「ガロ」(青林堂)や青年雑誌としてオピニオンリーダー的な存在となる「平凡パンチ」(平凡出版=現・マガジンハウス)が創刊されたのもこの年のことだった。

●昭和39年のベストセラー

順位	書名(著者/出版社)
1位	「愛と死をみつめて」(河野実・大島みち子/大和書房)
2位	「徳川家康」(全21巻/山岡荘八/講談社)
3位	「おかあさん」(全3巻/サトウハチロー/オリオン社)
4位	「若いいのちの日記」(大島みち子/大和書房)
5位	「おれについてこい!」(大松博文/講談社)
6位	「物の見方考え方」(松下幸之助/実業之日本社)
7位	「炎は流れる」(全4巻/大宅壮一/文藝春秋新社)
8位	「アンネの日記」(A・フランク/文藝春秋新社)
9位	「行為と死」(石原慎太郎/河出書房新社)
10位	「廃墟の唇」(黒岩重吾/光文社)

全国出版協会出版科学研究所

▲「愛と死をみつめて」(大和書房、320円)

▲「炎は流れる」(文藝春秋新社、420円)

▲「行為と死」(河出書房新社、290円)

スターと名場面
大ヒット「アンコ椿は恋の花」都はるみが鮮烈デビュー

この年、圧倒的な支持を得た映画は勅使河原プロの「砂の女」だった。砂丘地帯に昆虫採集に来た高校教師(岡田英次)が、村人の勧めで女(岸田今日子)が一人で住む家に泊まるが、この家は、砂丘に埋もれており、縄梯子なしでは外に出られない。初めのうちは脱出を当然のことと考えていた男も、いつしかそこの生活になじんでいくといった話なのだが、原作者の安部公房がみずからシナリオを書き、勅使河原宏が監督したこの作品は、現代人がおかれた状況を暗示するストーリーもさることながら、モノクロ映像の美しさと、岡田英次と岸田今日子のから み合いが醸し出すエロチシズムが斬新で、映画ファンを魅了した。この年の「キネマ旬報」ベストワンに選ばれ、国際的評価も高く、カンヌ国際映画祭審査員特別賞をはじめ数多くの賞を受賞した。

同じ年、芸能界では一人の若い歌手が一躍スター街道に飛び出した。都はるみである。コロムビア全国歌謡コンクールで優勝した都はるみは、ヒットメーカーの市川昭介(作曲)と星野哲郎(作詞)にその実力を認められ、両人の作詞作曲による「アンコ椿は恋の花」を歌ったところ、大ヒット。ミリオンセラーとなった。そして年末のレコード大賞では、新人賞を西郷輝彦とともに受賞し、都はるみ時代の第一歩を印したのである。

にっかつ提供

▲「愛と死をみつめて」(日活=斎藤武市監督)。吉永小百合と浜田光夫が共演した。

勅使河原プロダクション提供

▶「砂の女」で、妖しいエロチシズムをモノクロ画面に表現した岸田今日子は、高い評価を受けた。

にっかつ提供

◀「赤い殺意」(日活=今村昌平監督)。好演した春川ますみと露口茂。

▶一六歳でデビューした流行歌手・都はるみは、たちまちスターダムへ。

共同通信社

モノ語り'64
「やめられない、とまらない」使い始めたらクセになる"実用品"

▲初めて歯ぐきを意識させた歯磨き　歯だけでなく、歯ぐきをも対象にしたニュータイプの歯磨きで、歯槽膿漏を予防するという斬新なうたい文句の「デンターライオン」(ライオン歯磨=現・ライオン)が発売された。歯槽膿漏の症状を「りんごをかじると血が出ませんか」というコピーでわかりやすく伝え、ヒットした。「デンター」は歯科医をイメージした造語。95グラム入り120円。

▲ちり紙からティッシュへの革命前夜　化粧落としなどに使い勝手がよいポップアップ式のティッシュペーパーはアメリカ生まれだったが、昭和39年に上陸、十條キンバリーから「クリネックスティシュー」として生産・発売された。当時は、箱に納められた高価なちり紙(100組200枚で100円)と冷ややかに見られていたが、わずか十数年の間に、生産量で従来型ちり紙を圧倒し、ちり紙市場を席巻してしまった。そして今では「生活必需品」として扱われるまでになったのである。

◀ボールペンもカラー時代に　複数の色を簡単に使い分けることのできるボールペンが、この頃流行し始めたが、軸の上部にスライドレバーを採用した、ゼブラの3色ボールペン「スリーカラー」(1本130円)が登場するにいたって、このタイプが次第に主流になっていった。色は黒、赤、青の組み合わせで、これは今でも定番。

▲コップ酒が列車の中へ　列車で売られていた銚子タイプのお酒が、列車の振動で倒れたりする不便さを解消しようとして生まれたのが、底が広く口も広い、1本85円の「ワンカップ大関」(大関酒造=現・大関)だ。当初は手作業で瓶詰めされていたが、新幹線の開通やレジャーブームを追い風として、生産が追いつかないほどの超ヒット商品となった。

▶さわやかさでコーラに対抗　レモンがビタミンCを多く含むことから人気のあった時代に、森永製菓から発売された、新しいタイプの清涼飲料水「サンキストレモン」。すでに清涼飲料水市場を席巻しつつあったコカ・コーラに対抗して健康イメージを打ち出し、ロングセラー商品となった。

▲ぞうきんがけも省力化　前年、昭和38年に誕生したばかりのサニクリーンが、この年、ダスキンに社名変更。同時に、それまでの業務用化学ぞうきんや化学モップのレンタルから、家庭用化学ぞうきんのレンタルへと業務を広げた。その名も「ホームダスキン」。2枚セットの2週間レンタルで料金は150円と、価格も手頃で、主婦にとっては、バケツに水を汲んでの「ぞうきんがけ」から解放されることになったわけで、みるみるマーケットは広がっていった。

▶「やめられない、とまらない」お菓子の登場　お菓子のイメージを一変させた「かっぱえびせん」が、この年カルビーから1袋50円で売り出された。あられのようでありながら、お好み焼きやてんぷらの香りと味がミックスされて、それこそいったん口にすると、なかなかやめられない。ついにはクセになること(あるいはやめられない人)の代名詞として、この菓子の名が使われるようになった。

▲めんつゆも手軽に手に入る　もともとは魚市場の中に店を構える乾物商だった「にんべん」が、この年初めて手がけたインスタント商品が、「にんべんのつゆの素」。200ミリリットル65円、360ミリリットル110円と手頃だったが、当時めんつゆは、各家庭でそれぞれの味を追求していたから、なかなか浸透せず、ヒット商品に育っていったのは昭和50年頃から。現在はこの商品だけでも年商100億というから、家庭の味も変われば変わるものというべきか。

石津謙介（五三）

「VAN」が街を闊歩 若者をとらえた〝アイビー教祖〟

今も、アイビールックはメンズ・ファッションの「定番」として確固たる人気を保っている。ところでアイビーとは、米国のアイビーリーグ（八校の名門大学）のことで、アイビールックは本来、エリート学生の着る服装だ。

昭和三四年、石津謙介はこのモデルをアレンジしたスーツを発表。これが日本のアイビーの嚆矢となる。またTPOを提唱してカジュアルな魅力を持つ多くのアイテムを提供、経済的にもゆとりを持ち始めた、六〇年代の若者に圧倒的な支持を受けたのだ。

アイビーという言葉を日本に持ちこみ育てた石津謙介は、現在八五歳にしてますます元気。「悠々たる貧しさ、つまり悠貧を楽しんでいるよ」とそのダンディズムぶりは変わらない。

銀座、青山、そして全国へ

石津謙介は、明治大学を卒業後、昭和一三年に中国の天津で営業する総合洋品店・大川洋行に就職する。戦後日本に帰ってからは、レナウンに入社し、約四年在籍して退社。ここまでが彼の修業時代であったといえよう。

昭和二六年、大阪に資本金五〇万円で有限会社「ヴァンヂャケット」を創業。四年後には東京に本社を置く。彼が独特の嗅覚で時代の波に乗るのは東京に出てきてからである。翌年には「男の服飾」第六号（後に「メンズクラブ」と改題）の企画に参加して、「アイビー特集」を行い、アイビーの存在を強く訴えることに成功した。この頃から若者の一部に「VAN」という言葉は特別な響きを持ち始め、石津謙介は〝アイビーの教祖〟へと変貌していくのである。

昭和三九年は、新幹線の開業、オリンピックとにぎやかな年であるが、ファッションも負けてはいなかった。

「平凡パンチ」が創刊され、街では「みゆき族」が登場する。男の子たちはマドラス・チェックのシャツにコットンパンツというアイビールックで街を闊歩したものだ。アイビーは銀座から青山を席巻して、一気に全国へ。五三歳の石津はVAN＝アイビーの二人三脚で順風満帆だった。

▲平成8年6月、愛犬のウエスと「フライデーカジュアル・ファッションショー」に出演。

ヴァンヂャケットは、その後大企業へと駆け上がっていく。しかし昭和五三年、過剰在庫が原因で五〇〇億円の負債を抱えて倒産の憂き目にあう。

普通ならこれでもう精根尽きはてるものだが石津謙介は違った。ここから「ゆとリスト」としての人生を始める。

倒産については「ゼロから出発した仕事だけに、またゼロに戻っただけの話で……」（『悠悠ライフをお洒落に』日本経済新聞社）と淡々としたもの。

デニムのボタンダウンのシャツにジャケットをはおってしばしばマスコミに登場する彼の姿は、今でも男の色気を感じさせる。これはひとつの偉業である。

▶この年創刊。アイビー族など若者文化をリード。

マガジンハウス

◀若者のファッションをリードしていた頃のスナップ。この写真からも、ダンディズムの一端がうかがえる。

決定的瞬間

「LIFE」が特集！岡村昭彦が切りとったベトナム戦争の断面

その惨劇は一九六四年（昭和三九）五月四日、メコン川に近いカンボジアとの国境から二キロ離れたデルタ地帯にある小さな村で起こった。

フランスの植民地支配のくびきを解き放ったディエンビエンフーの戦いから一〇年、アメリカと南ベトナム政府軍はベトナムで引くに引けぬ泥沼に足を踏み入れていた。この時期は、政府軍にとって有利な乾期も終わりに近づき、あと一カ月もたてば、デルタ地帯は一面の湖沼と化してしまう。政府軍は必死だったが、農村を根拠に自衛団を組織するベトコン側の活動も、日増しに大規模なものになっていった。

PANA通信特派員として政府軍に従軍した岡村昭彦はこの村での出来事を「その拷問は、まことに手慣れたものだった。（略）地面の上に仰向けに倒された被疑者の顔には、布がかぶせられ、数人の兵隊が動けぬように体を押えつけ、一人がその布の上に水をこぼしていた。〝ウォー！〟。息が出来なくなった被疑者の喉から、しぼるようなうめき声がもれはじめる――」と、そのあまりにも凄惨な情景を「世界」（昭和三九年八月号）に記した。

岡村がフォト・ジャーナリストとして頭角を現し、世界中の脚光をあびるようになったのは、アメリカの週刊誌「LIFE」（一九六四年六月一二日号）のカバーストーリーを飾ったことによる。そこには「ロバート・キャパの後を継ぐウォー・フォトグラファー」「岡村にとっては〝恐怖に耐えることが誇り〟だった」という「エディターズ・ノート」とともに、戦場での生々しい光景を写し出したカラー写真が九ページにわたって掲載された。

岡村自身、そのことを知ったのは、前線から戻ったサイゴンのホテルだった。政府軍がベトコンと思われる被疑者を水責めにしている拷問の写真がアメリカの雑誌に載っていたことに、「この戦争は何なのか」と驚いたに違いない。

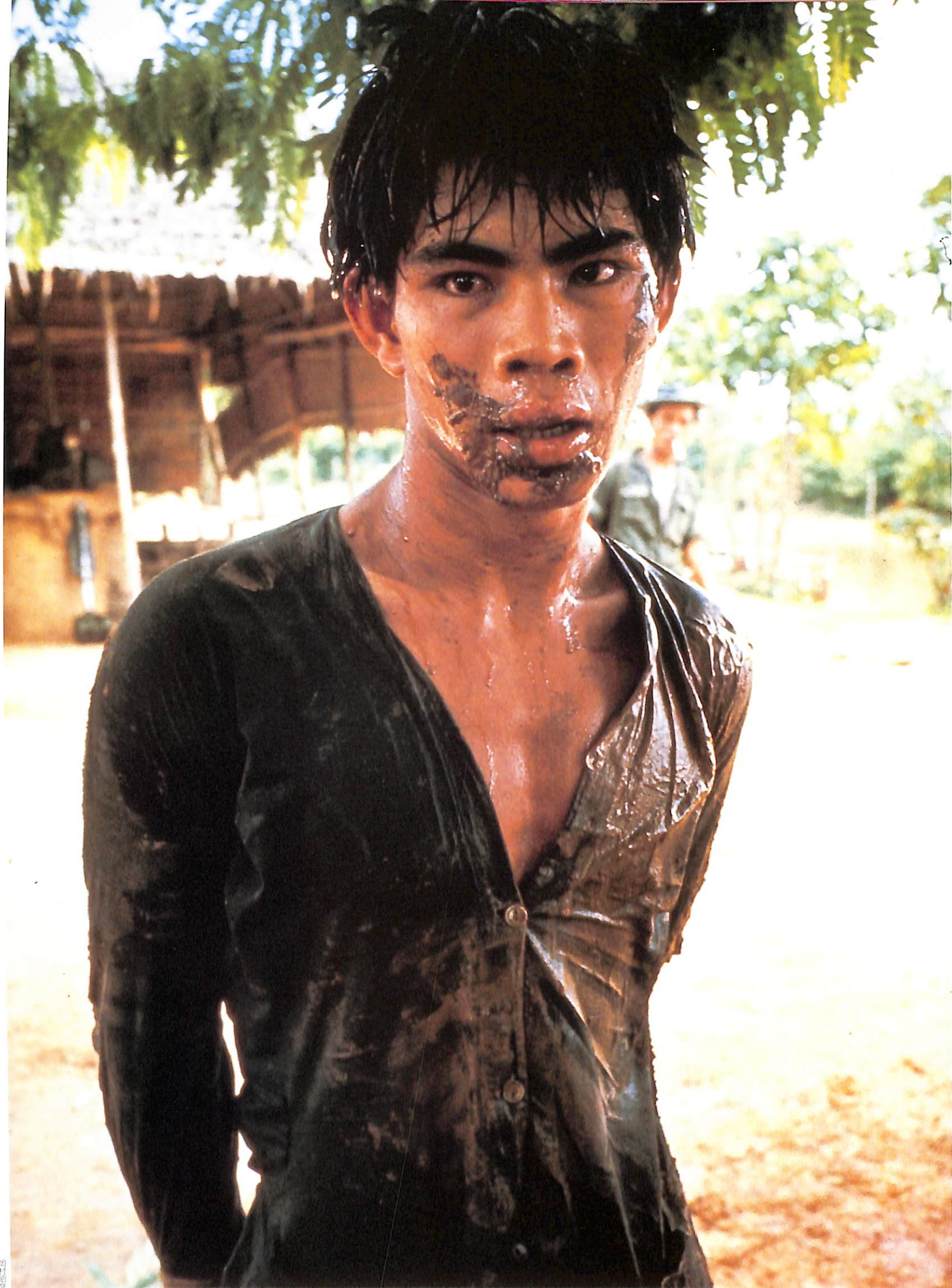
岡村が南ベトナムの米軍顧問として従軍を開始したのは二年前の六二年三月、三三歳の時である。メコンデルタで地雷に触れて死んだロバート・キャパの写真が、岡村の心に火をつけ、医学をめざしていた岡村は一転、戦争に挑み始めたのである。岡村は「写真はカメラマンの心境」と語ったことがある。戦争という行為の中で、人間の心を映し出すことで、写真が我々に語りかける。岡村はまさに、「カメラが戦争を撮る武器であることをも証明」（フォトエディター・米沢慧）してみせたのである。

岡村昭彦

▲拷問に使われた水は地面にたまり、アヒルたちがそれを飲む。解放戦線に味方する農民は、3時間にわたる拷問にも決して口を割らなかった。

岡村昭彦

◀南ベトナム政府軍に捕らえられ、その拷問に耐えた若い農民。彼は、おそらく銃殺されたであろう。

美の出会い

門外不出の“美女”「ミロのビーナス」に魅せられた一七二万人

朝日新聞社

▲展示場は、国立西洋美術館の前庭に特別に作られた。直径20メートルの円形ホールの中央に “美神” は展示された。

東京・上野公園の花見といえば、毎年、山を埋めつくす人出が話題になるが、昭和三九年四月八日の人波は、桜とは別の目的があった。国立西洋美術館の前庭、ロダンの「考える人」の前に、円形の展示場が建てられ、「ミロのビーナス特別公開展」が開幕。一番乗りをめざす人々が詰めかけていたのである。

午前の開会式は、フランスのポンピドー首相夫妻、池田首相夫妻ら約二〇〇人の招待者が出席し、高松宮・同妃殿下のテープカット、陸上自衛隊中央音楽隊のファンファーレで始まった。展覧会を主催した朝日新聞社のみならず、日仏両国の力の入れようを見せつけた。

これに呼応して、警備の方も厳重をきわめた。当日は制服警官一一六人、私服警官二一人が特別警戒にあたり、夜はアメリカ製の新鋭機「レーダー・アイ」が会場内に目を光らせていた。

昭和二九年に「フランス美術展」を開催し、一〇〇万人を超す入場者を集めて大成功をおさめた実績を持つ朝日新聞社は、東京オリンピックが開かれるこの年、「ミロのビーナス」の招致を企画し、フランスと交渉を開始した。これに対しフランス政府は、日仏親善の文化交流として、門外不出の「ミロのビーナス」を、日本に貸し出すことを決断した。美術ファンとして有名な衆議院議員の藤山愛一郎は「よくフランスは日本に出したな。これはフランスの非常な好意だと思う」と驚きの声をあげている。

四月一二日、公開後初の日曜日には、早朝から長い行列ができた。午前五時に福島県からやって来たという教師もいて、開館三〇分前には、約八〇〇人が行列し、やむなく開館を一〇分早めるほど。午前一〇時には入場待ちの行列が二〇〇〇人にふくれあがった。入場者の中からは、「ぎゅうぎゅう詰めの中、トコロテン式に押し出されて、ゆっくり鑑賞するどころではなかった」「まるでデパートのバーゲン会場のようで、パニック寸前の混みようだった」など不満の声もあがった。

「ミロのビーナス特別公開展」は、五月一五日まで東京で開かれた後、京都市美術館に巡回、五月二一日から六月一五日まで開催された。両館合わせて一七二万三四七六人が入場。それまでの展覧会入場者数の最高を記録した。

ビーナスは、ギリシャ神話に登場する愛と美と豊穣(ほうじょう)の女神で、古代から数多くの像が造られてきた。その中でも、とりわけこの「ミロのビーナス」が注目をあびるのは、美人コンテストのモデルと言われるような均整のとれた女性美をそなえている点が第一の理由であるが、制作年代についての論争、失われた腕のつき方、発掘当時あったといわれる腕と台座の消失など、いまだに謎の多いこともあげられる。

六年前、パリのルーブル美術館で、「ミロのビーナス」を見ている作家・川端康成は、「ルーブル美術館で見たときより、やわらかく生き生きと感じられる。あらゆる角度からの効果的な光線の加減だと思います。日本で再び見られるとは当時思ってもみなかったためか、そのときの感動とはまた違ったものを改めて感じている」(朝日新聞)と語った。

この年は、同展をはじめ「ロシア秘宝展」(東京国立博物館・四月)、「ピカソ・その芸術の七〇年展」(国立近代美術館・五月)、「日本古美術展」(東京国立博物館・一〇月)など、数多くの大がかりな展覧会が企画された。

これは東京オリンピックの年を文化的にも意味ある年にしたいという、官・民双方の意向がはたらいた結果でもあった。

◀「ミロのビーナス」は、一八二〇年、エーゲ海のミロス島で一農夫によって発見された。その後種々の経緯を経て、フランスの駐トルコ大使が購入し、国王ルイ一八世に贈られた。現在はパリ・ルーブル美術館の至宝。制作は紀元前一二〇年頃という説が有力である。高さ二・〇二メートル。

オリオン・プレス

「現場」を歩く

佐世保

米軍のガードが強化された埠頭

山本徹美

佐世保港を西から見下ろすようにそびえる赤崎岳の中腹から花火が打ち上げられた。昭和三九年一一月一二日午前八時三〇分のことである。

ほどなく港内に鉛色をした米原子力潜水艦「シードラゴン」が浮上する。

花火を合図に、米軍上陸場埠頭に続く「平瀬町ロータリー」で待機していた約一五〇〇人のデモ隊は、埠頭に向かって行進を開始。これを阻止しようとする警官隊ともみ合う。その際、全学連の学生が一五人逮捕された。

これに反発したデモ隊は座りこみを敢行。デモは翌日も行われ、総評系労組員三人と社会党の楢崎弥之助代議士らが公務執行妨害で逮捕される。三日目、デモ隊は六〇〇〇人にふくれ上がったが、午後二時、その騒ぎを尻目に「シードラゴン」は港を去る。

デモに参加したのは全国から集結した労組員と学生だった。佐世保地区労（総評）で事務局長を長くつとめた小島享氏（大正一五年生まれ）が回顧する。

「原潜闘争に参加した人々は全国各地からいずれも手弁当、普通列車を乗り継いでろくに睡眠もとらず、野宿覚悟で駆けつけた。その熱気と連帯感はあの時代ならではでした」

一方、二五万人を数えた地元住民はこのデモを遠巻きに見つめるだけで積極的に参加しようとはしなかった。そこには「米軍も大切なお客さん」という基地の町ならではの意識が働いていたと思われる。市内には長崎で原爆を体験した約一四〇〇人の被爆者が住んでいたが、彼らも沈黙したままだった。

「なにせ、原潜自体の知識が乏しかった。私だってエネルギーと爆弾は別物、ととらえていたくらいです」（小島氏）

日本学術会議（朝永振一郎会長）の湯川秀樹博士ら科学者たちが放射能廃液による海水汚染の危険性を訴え、にわかに「核」への不安が増大したのは、寄港寸前のこと。しかも原潜には核弾頭を搭載したミサイルの配備が可能であることも判明。こうして寄港反対の気運が高まったのである。

寄港反対の声も少なく

平成八年九月、佐世保を訪れてみた。タクシーの運転手に「平瀬町ロータリー」と、行く先を告げたが、わからないという。調べてみると、現在は米軍の「総監部入り口」と呼ばれていた。埠頭の手前にゲートが設けてあり、門衛が通行者をチェックしている。

「原潜闘争以前にはあの通用門はなく、埠頭まで自由に行けた」

と、小島氏はいう。今ではその門よりもはるか手前に黄色のラインが引いてあり、うっかりそこから先へ進むと「逮捕もある」（佐世保市基地対策課）とか。

日本人の騒ぎにまぎれて、米軍はしっかりと橋頭堡を固めたのである。それに対して寄港反対運動の方はどうか。

「地区労、市民団体などが抗議集会をしていますが、人数は少ない」（小島氏）

かつては原潜襲来を押し返そうと高まった波濤だが、今や佐世保港の波は平穏におさまろうとしている。

佐世保

▲佐世保市赤崎町から見た佐世保港。同港は昭和25年、米軍に接収され、翌年の日米安保条約の締結により米海軍基地として恒久化された。さらに28年には海上警備隊佐世保地方隊が発足し、現在は米海軍基地・海上自衛隊基地として使用されている。

読売新聞社

▲昭和39年11月12日、激しい抗議の声をよそに、佐世保港に姿を現した米原子力潜水艦「シードラゴン」。

大量・高速輸送時代の幕開け！ 新幹線「ひかり」、4時間で走る

●昭和37年6月26日、神奈川県の大磯―鴨宮間の「モデル線」で、試運転の運転台から手を振る十河信二国鉄総裁。

浜口タカシ

高度経済成長期の真っただ中、日本の力を世界に示す絶好の機会となる東京オリンピック開催まであと九日に迫った昭和三九年一〇月一日。国鉄が三八〇〇億円の工費を投じ、最新の技術を結集して作りあげた世界で最も速い列車"夢の超特急"東海道新幹線が営業を開始した。

戦時下の弾丸列車構想が高度経済成長期に蘇えった

開業当日の朝、東京駅と新大阪駅で初列車の出発式が行われ、定刻午前六時、アイボリーホワイトの車体にブルーの窓枠、分厚い鋼板のスカートをはいた「ひかり1号」が東京駅を、「ひかり2号」が新大阪駅をすべるようにスタートした。

当時、営業速度の世界最速は、フランスの「ミストラル号」、西ドイツの「ラインゴルト号」が記録した時速一六〇キロだったが、「ひかり1号」は小田原付近で時速一七〇キロをマーク。東京―新大阪間五一五キロをわずか四時間で突っ走った。所要時間は、翌四〇年一一月一日からは三時間一〇分に短縮されており、さらに現在の「のぞみ」では、二時間半になっている。

東海道新幹線建設の構想は、戦時体制下にあった昭和一四年にさかのぼる。この年、鉄道大臣の諮問機関「鉄道幹線調査会」が、東京―下関間を九時間以内で結ぶ「弾丸列車」構想を答申。東海道本線に、別線で国際標準軌間（一四三五ミリ）の高速新線を建設するというものだった。

一部工事が行われたものの、戦争激化で昭和一八年に工事は中断。戦後、高度

大量・高速輸送時代の幕開け！
新幹線「ひかり」、4時間で走る

▲東海道新幹線営業開始当日の東京駅プラットホームで。始発の乗客数は、730人余りだった。　影山光洋

経済成長期に入り、高まる一方の輸送需要に対応するため、幻の弾丸列車構想は東海道新幹線建設計画となって蘇えったのである。

昭和三三年八月三〇日に「日本国有鉄道幹線調査会」が設立され、同年一二月には運輸大臣に「東海道に新規路線を緊急に建設する必要がある」と答申。その結果、五年で東海道新幹線を実現するという計画がスタートし、昭和三四年四月二〇日には、新丹那トンネル東口で起工式が行われた。戦前の弾丸列車構想から四半世紀、着工からわずか五年半で東海道新幹線は開業にこぎつけたのだった。

ノンフィクション作家の橋本克彦氏はこう語る。

「速く走るだけなら時速五〇〇キロでも出せますが、適正なスピードで、なおかつ輸送力を保つためには、安全性に万全を期さなければなりません。そのためには安全を確保できる本数とそれを集中的に制御する運行管理システムが必要なのです。そこで当時の国鉄は、東海道新幹線運行にあたってコンピュータを導入し、世界でもハイレベルの集中管理システムを作りあげました。

また、速く進むということは、それだけ振動が大きくなるということにつながります。この振動をいかに制御するかが新幹線の最大の問題点でした。これを、かつて零戦の開発にたずさわった技術者の協力のもと克服したのです」

影山光洋

▲新幹線のビュフェ、高速時代に合わせて飲食のスタイルも簡便になった。

線路上の異物排除、振動対策、気密性の保持、ATC（自動列車制御装置）、CTC（列車集中制御装置）など、技術の粋を集めた新幹線だったが、当初はそれでもトラブルが頻発。営業が軌道に乗ったのは操業を開始してから約一ヵ月後のことだった。

急速な交通網の近代化がもたらした暮らしの変化

東海道新幹線が開業したこの昭和三九年は、その後の大量・高速輸送時代の幕開けとなる年でもあった。

同年九月五日には、日本のモータリゼーションの口火を切った名神高速道路が実質的に全線開通している。名神高速道路も、ドイツのアウトバーンを模して東京―神戸間に高速道路を建設するという、これまた戦前の「弾丸道路」構想がベースにあった。

だが、「弾丸列車」構想同様、戦争によって「弾丸道路」構想も立ち消えになり、戦後、道路改良の立ち遅れを解消するため、ようやく実現されることになったという経緯がある。

さらにこの年は、首都高速道路や地下鉄、都心と羽田を結ぶ東京モノレールが開通するなど、一気に交通網の近代化が進み、急ピッチで距離と時間が短縮された。それにともない、日本人の暮らしも大きく変容していくことになった。

まず、新幹線の実現により、東京―大阪間の出張も日帰りが可能になり、ビジネスがスピードアップ。ただし、出張先で歓楽街に繰り出し、一杯やる楽しみが失われたという声も出た。また、修学旅行も遠距離化。東海道線関連の輸送力も三八％アップして、人とものの大量・高速輸送が可能になった。

一方、昭和三九年の名神高速道路の開通に続いて、昭和四四年には東名高速道路が全線開通して名神高速道路と結ばれ、高速道路の交通量は飛躍的に増大する。同時に、輸送の主役は鉄道からトラックへと移り、また、庶民の足としての鉄道の地位も、マイカーの普及により次第に低下していった。

全国鉄マンの夢、超特急の実現が開いた新しい時代は、皮肉なことに国鉄の凋落をも招くこととなったのである。

朝日新聞社

▲新幹線と名神高速道路が入り組んで曲線模様を描く、彦根インターチェンジ付近。走っているのは、試験走行中の超特急。

フォト＋日録で再現する366日

▲化学製品倉庫にキノコ雲（7月14日）東京・品川の宝組勝島倉庫にあったドラム缶入りのシンナーなどが次々に爆発、消火にあたった消防士ら19人が殉職する惨事となった。

▲ラムダ3型1号機を打ち上げ（7月11日）宇宙研が開発した3段式、長さ約19メートル、重さ約7トンの日本最大のロケット。高度1000キロに達した。

▲列車内で花札賭博（7月1日）東北本線で花札賭博をしていた男たち8人を、合同捜査陣が現行犯逮捕。1ヵ月前から帰宅時に賭博を繰り返していたもの。

▼東京砂漠（7月23日）21日、東京都は三つの水がめの貯水量が満水時の6.4パーセントを切ったと発表。小河内ダムでは水没していた井戸が現れた。

▼判定に座布団の雨（7月27日）東京・蔵前国技館で行われた世界J・ライト級選手権で、挑戦者の小坂照男はカウント8のダウン。レフリーが即座に王者エロルデの勝ちを宣すると場内は騒然となった。

▼北陸・山陰地方に豪雨（7月17～19日）北陸で21人、山陰では107人もの死者・不明者を出した。写真は豪雨による土砂崩れで倒壊した金沢市の小学校。

昭和39年7月

1（水）●母子家庭の福祉強化など母子福祉法公布施行。

2（木）●日米共同で太平洋での深海地震探査を開始。

3（金）●憲法調査会、最終報告書を池田首相に提出。

4（土）●東京戸塚署、早大での全学連乱闘事件（2日）に関し、法政大経済学部自治会室を捜査。

5（日）●富士山清掃。空き缶・瓶など二五万個を回収。

6（月）●山口大学、一三六人の不正入学の資料を公表。

7（火）●ヘンリー大江が単発小型機で太平洋を横断。

8（水）●厚生省、三八年簡易生命表を発表。平均寿命は男六七・二、女七二・三歳と欧米並みに。

9（木）●生産性の向上をめざす林業基本法公布、施行。

10（金）●森山豊東大教授ら、サリドマイド発売以来六年間で九三六人の障害児が出生したと発表。

11（土）●電気事業法公布。電気料金の許可制など。

12（日）●蚊帳は不人気、電気蚊取り器が登場、と新聞に。

13（月）●毛沢東が千島の日本返還支持、と社会党発表。

14（火）●品川区の化学製品倉庫で爆発。一九人死亡。

15（水）●原子力委員会に原子力船部会の設置を決定。
●行方不明など出稼ぎ問題が多発、と新聞に。

16（木）●神奈川県教委、教員不足から退職勧告を延長。

17（金）●南原繁、松本清張らが下山事件研究会を発会。

18（土）●プールへの注水停止など都が渇水対策を決定。

19（日）●豪雨で北陸・山陰に大被害。死亡・不明一二八人、負傷二九一人、家屋の全半壊一五〇二戸。
●警視庁交通課、カミナリ族を一斉取締り。

20（月）●御殿場市で、酔って米海兵隊基地に入った女性を歩哨が射殺。防衛庁幹部が過剰警備と批判。

21（火）●アッツ島慰霊団の一四人、羽田を出発する。

22（水）●LSA気象観測ロケット二機打ち上げ成功。
●日本初の海底掘削船、「第一探海号」公開。

23（木）●東京都立駒沢オリンピック公園が完工する。

24（金）●琉球立法院、日本政府に、戦前の郵便貯金の適正な補償と早期の支払いを求める決議。

25（土）●東海道新幹線全線工事完成、試運転に入る。
●山陽本線全線電化が完成（10月1日開業）。

26（日）●米経済誌の米国をのぞく世界二〇〇社番付に日本企業三七社が入る（前年比六社増）。

27（月）●都議会、青少年健全育成条例を可決。

28（火）●「現在は戦前以上」の生活水準との回答は七六パーセントと、総理府が三九年の世論調査結果を発表。

29（水）●東京地裁、警察拘置者の雑誌や入浴の制限は行き過ぎとして、都に賠償を命じる。

30（木）●都内の車登録一〇〇万台突破、と陸運局発表。

31（金）●群馬県赤城村で一九五人が真性赤痢と判明。

証言・あの日この日

小林信彦

7月9日（木）　〈午前10時半、ユナイトのおしのび試写会。評判の《ビートルズ》の映画なり。

要するに、この映画を公開すべきかどうかという相談だ。スーパーが入っていないので、会話はわからないが、映像感覚が抜群であり、私は《公開すべき派》だ。ユナイトとしては、ヘンな映画だが、ヒットするのなら公開したいという商魂のみ〉（小林信彦『1960年代日記』）

1962年10月にデビューし、翌年1月には早くもイギリスでシングルヒットNo.1を記録したビートルズの、日本でのデビュー盤が発売されたのは、この年2月5日。しかし、いきなり人気爆発とはならなかった。映画「ビートルズがやってくる／ヤア！ ヤア！ ヤア！」が公開されたのは8月1日のことである。（坪内祐三）

▲高知高が初優勝（8月18日）第39回夏の高校野球大会で、4度目の出場で栄冠を獲得。初回、早鞆高の隙に乗じて先取した2点を守りきった。写真は故郷に凱旋した選手たち。

▲黒部ダム、いよいよ一般公開（8月1日）関西電力はダム建築資材の輸送路だった長野県大町市と黒部ダム間23キロをバスで結ぶ工事を完了。この日、バス路線開通を祝してテープカットを行った。

▼必死のコレラ防疫活動（8月26日）前日、千葉県で死亡した男性がコレラと断定されたため、五輪直前の政府は対策に全力をあげ、都の保健所では希望者に予防接種をした。

▼高島忠夫の愛児殺害される（8月24日）自宅で5ヵ月の長男が17歳のお手伝いの女性に湯船に投げこまれて窒息死。写真は翌日の記者会見。

▲トンキン湾事件（8月2日）マクナマラ米国防長官はトンキン湾で米駆逐艦が、北ベトナム魚雷艇に攻撃されたと発表。しかし、事件は米国がベトナム戦争に全面介入する口実を得るための謀略だった。

昭和39年8月

1（土）●第一〇回原水禁世界大会をソ連がボイコット。
●首都高速一号・四号線が開通。羽田で開通式。

2（日）●東京夢の島が猛暑で自然発火。〇・五ヘクタール焼く。
●ベトナムでトンキン湾事件が起こる。

3（月）●公選法違反の平井建設省官房長らを書類送検。

4（火）●米軍機、トンキン湾の北ベトナム基地を爆撃。

5（水）●新潟県で新農薬散布人体実験（二日後に発病）。

6（木）●東京都、四五パーセント節水の第四次給水制限を実施。

7（金）●神戸の王子動物園で双子のチンパンジー誕生。

8（土）●小豆島でバス転落。二人死亡、七一人重軽傷。

9（日）●町田市の小学校で暴力団が歌謡ショーを開く。

10（月）●落雷で東京金町浄水場が故障。七〇万戸断水。
●社共など一三七団体がベトナム反戦の集会。

11（火）●閣議、南ベトナムへの第一次緊急援助を決定。

12（水）●南ア五輪委が人種差別続行を通告、とIOC。

13（木）●科技庁、小河内ダム上空などで人工降雨実験。
●琉球立法院、日の丸掲揚の自由を、と決議。

14（金）●東海大の学生が海洋ロケット試作中に爆死。

15（土）●高齢者の八〇パーセントが子供と同居、と厚生省調査。

16（日）●松川事件（24年8月）の時効が成立。

17（月）●二枚目スター佐田啓二が、自動車事故で死亡。

18（火）●航空自衛隊浜松南基地で一三七五人が食中毒。
●言語障害児を持つ親の会が、初の全国大会。

19（水）●厚生省、献血組織の整備・移動採血車の普及など、売血からの転換をうながすための方策を発表。

20（木）●青森県龍飛で青函トンネル調査坑の鍬入れ式。
●日米英仏など一一ヵ国、インテルサット（国際電気通信衛星機構）の暫定協定に調印。

21（金）●ギリシャで採火式、聖火リレーがスタート。
●五輪道路三四路線（延べ六三キロ）の総合完成式。

22（土）●農林省、鶏卵に畜産物価格安定法を初適用。
●労働省、中学新卒者の求人倍率は五倍と発表。

23（日）●池田首相、一〇年後には農業人口を現在の三分の一にしたい、と記者会見で発言。

24（月）●警視庁、東京五輪の要人警護に四六四人のボディガード専門部隊を編成すると発表。

25（火）●山梨県山中湖畔で米海兵隊員と日本人が乱闘。

26（水）●東京紀尾井町にホテルニューオータニが完成。

27（木）●大宮市で集団食中毒、一〇三〇人が発症。

28（金）●閣議、米国の原子力潜水艦寄港要請を受諾。

29（土）●東京練馬区の農家で、元文小判を発見。

30（日）●東京本所署、五輪道路建設の騒音にまぎれて金庫破りなど四五件の窃盗をした二人を逮捕。

31（月）●ジュネーブで第三回原子力平和利用国際会議。

▶笑顔で入院、池田首相(9月9日)喉の痛みで首相は東京・築地の国立がんセンターに入院、10月25日に辞意を表明した。実際は喉頭癌の末期症状だった。

共同通信社

▲小説「宴のあと」裁判、プライバシーが勝訴(9月28日)東京地裁は「芸術的価値もプライバシーを侵害できない」として、モデルとなった有田八郎の主張を認め、三島由紀夫(中央)に賠償支払いを命じた。

共同通信社

◀義宮正仁親王、津軽華子さんと結婚(9月30日)午前10時すぎから、皇居内の賢所外陣で140人が参列して古式ゆかしく結婚の儀が行われた。2人は天皇から常陸宮の新宮号を贈られた。

読売新聞社

▲日本最長の琵琶湖大橋開通(9月27日)大津市堅田町の今堅田と、野洲郡守山町木ノ浜を結ぶ1350メートルの有料橋で、総工費は14億3000万円。中央部の橋ゲタ間の長さ140メートルも日本一。

朝日新聞社

▼阪神、逆転でセ・リーグ優勝(9月30日)甲子園球場の対中日ダブルヘッダーに連勝した阪神は、大洋を勝率で逆転し、戦後3度目の優勝を決めた。

日刊スポーツ

▼53号の記念ボールをキャッチ(9月6日)川崎球場での大洋戦で、巨人の王選手は1シーズン53本の最多本塁打新記録を樹立。ホームランボールは、右中間スタンドの観客が拾い、王選手に手渡した。

日刊スポーツ

昭和39年9月

1(火)●海原防衛局長、米国が原潜用に開発中の対潜ミサイルは、すべてが核を装備、と言明。

2(水)●全雇用者中、女子は三一・五%と労働省発表。

3(木)●社会党など八〇〇〇人が原潜寄港阻止集会。

4(金)●日銀、株価安定のため証券会社に特融を決定。

5(土)●炉内容積世界一の東海製鉄所一号高炉が完成。
●代々木の国立体育館(丹下健三設計)が落成。

6(日)●巨人の王貞治、対大洋戦で年間五三本塁打の日本記録を樹立(23日に五五本を達成)。

7(月)●昭島市の一〇四世帯、米軍横田基地の騒音のため集団移転を決定(5月にも二五三世帯)。

8(火)●大和市で米戦闘機が工場に墜落、五人死亡。

9(水)●聖火が沖縄から空路で鹿児島に到着する。
●全国の郵便局で五輪記念切手を一斉発売。

10(木)●福岡県粕屋町で自衛隊のヘリが墜落、乗員八人死亡。犬山市でも戦闘機が空中で衝突する。

11(金)●労働省、東京・上野職安に高野工業所への紹介停止を指示(不良職場への初の紹介停止)。

12(土)●東京築地署、銀座の「みゆき族」を一斉に補導。
●大阪府教委、児童、生徒が授業をさき自宅で五輪放送を視聴してもよいと通達する。

13(日)●沼津市で二万五〇〇〇人が参加して、コンビナート進出反対市民総決起大会を開く。

14(月)●富山市で工場から塩素流出、三四二人中毒。

15(火)●岩槻市で、一〇日のヘリ事故の葬儀参列者を乗せた航空自衛隊のヘリが墜落、六人死亡。

16(水)●沖縄援助で第二回日米協議委員会を開催。

17(木)●羽田空港―浜松町間の東京モノレールが開業。

18(金)●元日本兵捜索のグアム島派遣調査団が出発。

19(土)●相撲協会、部屋別総当たり制導入を決める。

20(日)●広島市平和記念公園に「平和の鐘」が完成。

21(月)●東京五輪記念百円銀貨の引き換え始まる。

22(火)●朴韓国大統領、日本漁船の李ライン侵犯取締り強化で、単発機を使用するよう指示。

23(水)●原水協・共産党など横須賀市で七万人、佐世保市で一万人の米原潜の寄港阻止集会を開く。

24(木)●台風二〇号、九州に上陸(全国で死者四七人)。

25(金)●経済審議会、中期経済計画の政策大綱を了承。

26(土)●東京・代々木の五輪選手村で初の入村式。
●韓国から募金での里帰り第一陣、下関に到着。

27(日)●大津市で琵琶湖大橋の開通式が行われる。

28(月)●東京地裁、小説「宴のあと」はプライバシー侵害として、三島由紀夫らに賠償を命令。

29(火)●日中記者交換による中国記者団が東京に到着。

30(水)●義宮正仁親王と津軽華子さんが結婚する。

◀ソ連のフルシチョフ首相、突如解任(10月15日)高齢と健康悪化を理由に、11年にわたる政権にピリオドを打った。後任の党第一書記にブレジネフ、首相にコスイギンが就任した。

ノーボスチ通信社

▲中国、ついに核実験(10月16日)中国政府は、核兵器の全面禁止のために、同国西部のタクラマカン砂漠で核実験を行ったと発表した。中国は世界で5番目、アジアで初の核保有国となった。

新華社・中国通信社

▲志ん生師匠に金メダル、紫綬褒章受章(10月23日)「受章を受けた心持ち 落語の方で金メダル」。古今亭志ん生(74)は東京・日暮里の自宅で、即興の川柳に託して喜びを語った。

共同通信社

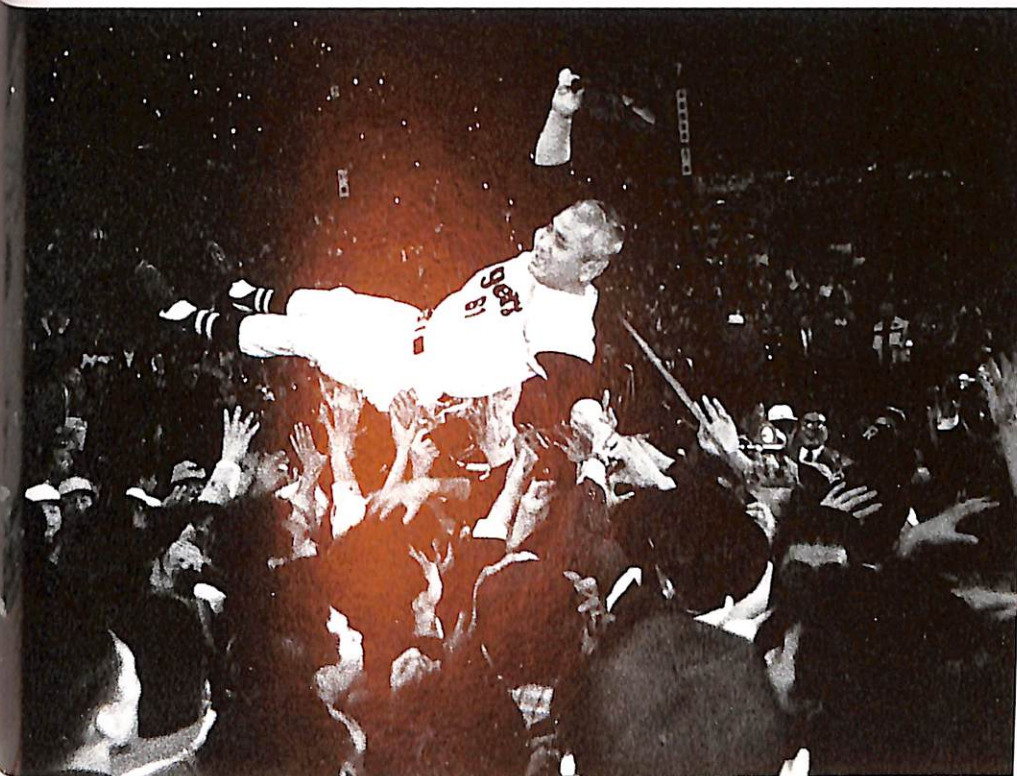
▼YS11量産1号機、名古屋で初飛行(10月23日)メーカー6社、部品メーカー18社が協力し、設計から初飛行まで5年かかった。最終的には182機が生産され、うち76機が13ヵ国に輸出された。

共同通信社

▲上野水族館が開館(10月30日)上野動物園の開園80周年記念として、4階建てで、開館。放し飼いにされたゾウガメが人気だった。

毎日新聞社

▲アンナプルナ南峰に初登頂(10月13日)学生中心の京都大学山岳部遠征隊6人は、ネパール・ヒマラヤの処女峰、アンナプルナ南峰(7219メートル)の世界初登頂に成功。

木村雅昭 京都大学山岳部提供

昭和39年10月

1(木)●東海道新幹線、東京―新大阪間の営業を開始。

2(金)●五輪記念の千円銀貨の引き換えが始まる。

3(土)●九州横断道路、別府―長崎間が全線開通する。
●日本武道館が開館。五輪競技会場すべて完成。

4(日)●イタリア海軍練習艦隊が初来日。東京湾入港。

5(月)●名古屋―神戸間に初のハイウエーバス運行。
●東京葛飾区の製薬工場で金属ナトリウムが水に触れて爆発。二人死亡、二人重軽傷。

6(火)●防衛庁、グアム島から返還された「零戦」検査。

7(水)●東京都青少年健全育成審議会が初会合を開く。

8(木)●北朝鮮選手団、新興国スポーツ大会制裁問題で、全選手の引き上げを五輪組織委に通告。

9(金)●インドネシアも東京五輪の参加拒否を発表。

10(土)●第一八回オリンピック東京大会が開幕。

11(日)●新幹線が架線火災で遅延。初の料金払い戻し。

12(月)●五輪重量挙げフェザー級で三宅義信が優勝。
●ソ連、世界初の三人乗り宇宙船「ボストーク号」の打ち上げに成功(13日予定地に帰還)。

13(火)●京大山岳部、アンナプルナ南峰に初登頂。

14(水)●出隆、野間宏、佐多稲子らが共産党指導部批判の声明を発表する(11月9日、除名)。

15(木)●ソ連共産党、フルシチョフ解任を発表。

16(金)●中国、初の核実験に成功したと発表する。

17(土)●共産党のぞく各党と政府、中国核実験に抗議。

18(日)●福岡県玄海町、強風下の火災で三一戸全焼。

19(月)●放射能対策本部、中国の核実験で日本に平常の一〇〇倍の放射能塵が飛来した、と発表。

20(火)●五輪男子体操、団体と総合個人で日本が優勝。
●閣議、公務員給与引き上げ費捻出のため、本年度予算から一律三%節減を案了承する。

21(水)●エチオピアのアベベ、男子マラソンで二連覇。
●伊勢湾の異臭魚は工場廃液が原因、と科技庁。

22(木)●ニチボー大垣工場で爆発。作業員一人死亡。

23(金)●五輪女子バレーボールで日本が初優勝する。

24(土)●国立競技場で、東京オリンピック閉会式。

25(日)●癌で入院中の池田首相が辞意を表明する。
●札幌市定山渓鉄道で衝突事故。三九人重軽傷。

26(月)●第一回原子力の日。講演会などが開かれる。

27(火)●黄海で下関の漁船が北朝鮮漁船の銃撃受ける。

28(水)●茨城県麻生町、初の農村集団自動電話を設置。

29(木)●福島県小名浜沖で自衛隊機同士が接触、墜落。

30(金)●東京上野動物園に水族館が完成し開業する。

31(土)●国鉄、関門連絡船を廃止し記念航行を行う。

毎日新聞社

▲大荒れの米原潜寄港阻止集会（11月7日）横須賀市で開かれた集会には約3万人が参加。米海軍基地前をデモ行進中、学生と警官隊が衝突し、134人が負傷、31人が逮捕された。

朝日新聞社

▲ブロードウェイがやって来た（11月9日）人気ミュージカル「ウエストサイド物語」が東京・日比谷の日生劇場で開幕。言葉の壁を超える歌と踊りで、観衆を魅了し、12月27日まで公演した。

共同通信社

▶後継総裁、話し合いで一本化（11月9日）池田首相辞任による後継総裁問題は、佐藤栄作、河野一郎、藤山愛一郎の3候補の間で調整が進み、第47臨時国会で第1次佐藤内閣が成立した。

▼ミスター・ジャイアンツ婚約（11月26日）巨人の長嶋茂雄選手（28）は、東京・赤坂のホテルニューオータニで、西村亜希子さん（21）との婚約を発表。翌年1月26日に結婚した。

朝日新聞社

読売新聞社

▲衆議院進出めざし、公明党発足（11月17日）参議院で15議席あった公明政治連盟は、東京・両国の日大講堂で結党大会を開催。1万5000人が参加し、新委員長に原島宏治を選出した。

毎日新聞社

◀駿足シンザン3冠馬（11月15日）京都競馬場で行われた第25回菊花賞を制覇し、セントライト以来23年ぶりに3冠を達成。翌年には天皇賞、有馬記念にも勝って引退した。

WWP

▶中ソ関係改善へ、周首相訪ソ（11月5日）周恩来中国首相は、第47回十月革命記念式典出席のため、1年4ヵ月ぶりにソ連を訪れ、コスイギン首相らの出迎えを受けた。

昭和39年11月

1（日）●全日本医学生連合、インターン制度改善意見書（1月25日）に反対して願書出願を拒否。

2（月）●東大宇宙航空研究所、カッパー8L型ロケット七号機の打ち上げに成功する。

3（火）●大内兵衛ら、護憲アピール十人委員会を結成。

4（水）●福岡県水巻町の「暴力炭鉱」で五人を逮捕。

5（木）●ソ連最高会議、ゾルゲ事件（16年10月）のリヒアルト・ゾルゲにソ連邦英雄の称号を追贈。

6（金）●文相、義務教育普及は世界一だが施設などは劣るとする「わが国の教育水準」を閣議報告。

7（土）●横須賀市で米原潜寄港阻止のデモで学生と警官隊が衝突。三一人検挙、一三四人が負傷。

8（日）●東京・代々木でパラリンピック東京大会開会。

9（月）●第一次佐藤栄作内閣が成立する。

10（火）●新幹線に対抗して日航と全日空が協力を決定。

11（水）●全日本労働総同盟（同盟）が結成される。

12（木）●米原潜「シードラゴン」が佐世保に入港。

13（金）●佐世保署、原潜寄港反対デモ中の社会党・楢崎弥之助衆議院議員を公務執行妨害で逮捕。

14（土）●科技庁、原潜寄港で放射能変化なしと発表。

15（日）●第二五回菊花賞でシンザンが優勝、三冠馬に。

16（月）●いすゞ自動車、英企業の技術援助停止を発表。

17（火）●公明党が結成大会を開く。委員長に原島宏治。
●ソニー、家庭用ビデオテープレコーダー発売。

18（水）●相撲協会、暴力団主催の「熊本場所」を中止。
●南ベトナムへ軍需物資輸送の米軍LST一七隻に、日本人八二七人が就業、と新聞に。

19（木）●陸上自衛隊、地対空ミサイル二四基の東千歳駐屯地への搬入は完了したと発表。

20（金）●出火原因の一位はタバコ、と『消防白書』発表。
●日本初の灯台博物館、神奈川県城ケ島に開館。

21（土）●興福寺で火事。重文の阿弥陀如来像は無事。

22（日）●神経を冒すスモン病が全国で発生、と新聞に。
●豪カウラ市に海外初の日本人戦争墓地が完成。

23（月）●磐田市で新幹線保線員がはねられ、五人死亡。

24（火）●日本共産党が第九回大会を開き、志賀義雄、中野重治ら四人の除名を承認（～30日）。

25（水）●都市と地方の身長に大差、と『学校保健統計』。

26（木）●巨人軍の長嶋茂雄が婚約を発表する。

27（金）●大蔵省、四〇年の標準家庭（五人家族）の基準生計費は、年五四万三〇〇〇円と算定する。

28（土）●百里基地反対の最後の農家、土地買収に調印。

29（日）●東京大田区の幼稚園で、翌一二月一日に始まる入園願書受付に午前一一時から親の行列。

30（月）●初の日豪年次協議、日本の外務省で開かれる。

共同通信社

▲市価の1～5割引きで、「サヨナラ・東京オリンピックセール」（12月8日）東京・池袋の西武百貨店で、選手村で使われた家具や日用品約1万点が売り出され、1時間で売り切れとなった。

▲「ヤクザ道に訣別」と安藤組解散（12月9日）東洋郵船社長襲撃などで知られる暴力団安藤組が、安藤昇会長の意思で解散を表明。渋谷区民講堂で解散式を行い、今後は善良な市民として生きると決意を語った。

共同通信社

▲オリンピックプールがスケート場に（12月25日）東京・代々木の屋内総合競技場が一般公開された。プールの上に板を敷き、氷を張ったリンクは2400平方メートルで、選手気分が味わえた。

共同通信社

▶金田、あこがれの巨人へ（12月23日）巨人は東京・大手町の読売新聞社で、国鉄の左腕投手・金田正一の入団を発表した。国鉄在団15年間の記録は353勝267敗、奪三振4065、防御率2.27。

沢田敦一

▲皇太子夫妻、タイ訪問（12月14日）天皇の名代として21日までバンコク、チェンマイを訪問。各地で日の丸と赤・青・白のタイの小旗を持った市民の歓迎を受けた。

昭和39年12月

1（火）●日本特殊鋼、会社更生法の適用を申請する。

2（水）●OECD閣僚会議に日本代表が初めて出席。

3（木）●第七次日韓会談の第一回全体会議が開かれる。
●大気中の亜硫酸ガスは一〇年で九倍と都調査。

4（金）●日銀、日本共同証券に四〇〇億円の特別融資。
●箕面市の私立高校で、「長髪を認めろ」と生徒一〇〇〇人が投石、警官一〇〇人が出動。

5（土）●社会党、原爆投下指揮官への叙勲反対を要請。

6（日）●東北医師会連合会、一診療につき五〇円の暖房費の徴収を申し合わせる。

7（月）●市川房枝ら「徳島ラジオ商殺人事件」（28年）で服役中の富士茂子の仮出所嘆願書を提出。

8（火）●東京カテドラル聖マリア大聖堂で献堂式。
●神奈川県清川村に米軍機墜落、農家四棟全焼。

9（水）●両津市で前月二〇日以来赤痢患者三三二人に。

10（木）●京都市のサリドマイド児の両親、製薬会社と国に対し、損害賠償請求訴訟を起こす。

11（金）●警察庁、全国で初の予告交通取締り実施。

12（土）●サンウエーブ工業、会社更生法の適用を申請。

13（日）●小笠原への墓参を米政府考慮と、外務省発表。

14（月）●スモッグのため全日空機が羽田に着陸できず。
●国鉄スワローズの金田正一、初の「B級一〇年選手特権」で退団（23日、巨人入団決定）。

15（火）●日本航空、海外旅行の月賦制度を始める。

16（水）●石炭鉱業審議会、石炭産業再建策を答申。

17（木）●東京地裁で裁判長らが元被告に刺され負傷。

18（金）●自衛隊が南極観測に協力する改正案衆院通過。

19（土）●日本道路公団労組、料金徴収拒否のスト突入。
●江東区の地盤沈下防止で工場用の水道が開通。

20（日）●厚生省、医療費の保険点数改正案をまとめる。

21（月）●日本放送連合会、番組向上委員会の設置決定。

22（火）●京都市の名神高速道路で、午前八時頃濃霧のため三〇台が玉突き事故。一人死亡。

23（水）●日赤が移動採血車を各県支部へ引き渡す。

24（木）●警察庁、運転者に飲酒させたものも検挙と通達。

25（金）●代々木の五輪施設、スケート場として開放。

26（土）●保守二党が合同し、沖縄民主党が結党大会。

27（日）●ラグビーで早大、ニュージーランドを破る。

28（月）●全日空、初の国産旅客機YS11型機を購入。

29（火）●米財務省、米国内での日本の鉄鋼製品に関するダンピングは「白」、と調査を打ち切る。

30（水）●東京で住民がゴミの路上投棄を徹夜で張り番。

31（木）●NHK、「紅白歌合戦」を全世界に向けて放送。

我楽多市

流行語
味気なさを表す「東京砂漠」

一〇月に予定されたオリンピックを控えて、東京は異常渇水に見舞われた。七月には気温三一度以上の日が二九日も続き、八月に入ると一七区で一日一五時間も断水するという異常事態となった。これが「東京砂漠」と呼ばれ、この言葉が聞かれない日はなかった。バケツ一杯二〇〇円の水売りが現れたのもこの頃である。

八月二五日、利根川からの取水が行われて、ようやく危機を脱したが、その後「東京砂漠」は、都会生活の索漠とした味気なさを表す言葉として生き続けることになった。

「アスパラで生き抜こう」。高度経済成長とともに仕事ひと筋のサラリーマンの間に、栄養剤に頼る人が急増。そんな中、歌手の弘田三枝子が元気いっぱいに叫ぶCMが人気を呼んだ。

「OL」。昭和三八年、NHKが「BG」という言葉を放送禁止用語に指定した。そこで雑誌「女性自身」がBGに代わる言葉を募集したところ、一位がOL。以後、OLが女性会社員の意味で使われるようになった。

NHKサービスセンター

▲NHKの人形劇「ひょっこりひょうたん島」は4月6日放映開始。

CM100年

テレビCF
「かあちゃん　いっぱいやっか
——神聖」（株式会社山本本家）

ファッション
日本女性に敬遠された最先端水着、トップレス

この年五月、ハリウッドでおっぱい丸出しの水着、トップレスが発表され、世界中の話題を集めた。ヨーロッパではさっそくマネする女性が続出し、六月にはお堅いことで知られるイギリスの社交界にも、トップレスのドレスの女性が登場した。

しかし、日本ではトップレスはまったくはやらず、新宿のデパートでは一枚売れただけ。ファッション評論家によると、「日本女性はバストが貧弱だから、いつもは外国の流行に敏感な女性たちも、この時だけは隠す美徳を選んだ」のだという。

▲「週刊少年サンデー」で、藤子不二雄「オバケのQ太郎」の連載がスタート。

健康
病んで医師にかかる人、かからない人

厚生省の「国民健康調査」が発表された。それによると病気になった場合、医師にかかる人は四八%、売薬ですます人四〇%、あんま、はり、きゅうなどが三・三%、そして祈禱師に頼る人が〇・八%いた。当時は、まだまだ呪術療法が根強く生きていた。

（「朝日新聞」一月六日）

産業
仏壇が〝夜の道具入れ〟として外国人に人気

〔長野発〕長野県飯山市には仏壇の製造業者が一四軒あり、目下テンテコ舞いの忙しさ。東京からオリンピックで来日する外国人観光客向けの注文が舞いこんだためだが、アメリカやイギリスなどの客は〝仏壇〟として使ってくれないので、業者としてはあまり売りたくないのが本音。彼らの一番多い使用目的はクツ入れ、トイレの中の雑誌ダナなど。団地サイズの小さな仏壇は、ベッドの脇に置かれて〝夜の道具入れ〟に使われているという。

（「週刊新潮」八月一〇日号）

バイト代
エリート学生が選ばれる変わり種アルバイト

フトン干し一枚三〇円、留守番（泊まりこみ）九〇〇円、イヌの散歩やエサやりは五〇円増し。

ただし、これらのバイトはこの頃でなくなり、代わりに一流大学医学部の学生の間で精液提供というバイトが登場した。人工授精が盛んになり、頭のいい男性の精液がほしいというので、彼らが選ばれたのである。一回三五〇〇円と値段は破格。

（『昭和性相史3』第三書館）

美女倶楽部　伴田良輔・選

▲昭和39年6月号「100万人のよる」カラー・ヌード・グラビアより。この頃からカラー印刷技術は、飛躍的に向上し、色彩を計算に入れたヌード撮影が要求されるようになった。

三面記事
博多の夜のトレードマネー

〔福岡発〕佐賀県にある女性刑務所を出所する女性たちが、夜の博多で高額で「トレード」されている。彼女たちの大半は売春で稼ぐ。一方、枕探しなどで服役したもの。出所した時は貧乏で、しかも刹那的な生き方が身にしみついているから、手っ取り早く稼ぐためによく働く。ポン引きにとって、その点がかっこうの狙い目というわけで、何とか女性を自分のナワ張りに引っ張りこもうと、彼女たちの出所の日付を調べ手ぐすねひいて待ち構えている。

もっともそこにも権利関係があり、彼女たちが刑務所に行く前、その女性を抱えていたものが第一の権利者になる。権利を譲り受けるには五万〜一〇万円くらいの金が必要だが、たとえ最高一〇万円の〝トレードマネー〟を払っても、もうけが大きいので十分に引き合うそうだ。

（「フクニチ新聞」一月二五日）

海に落ち、マンボウの背にまたがって〝生還〟

〔高知発〕漁船から転落したもののマンボウの背中に乗っかって漂流し、無事に救助された少年がいる。高知県土佐市のカツオ漁船「第十二・一宮丸」（三九トン＝川添博船長ら三〇人乗り組み）の甲板員見習い山中勇君（一六）は、先日宮崎市の沖合約一三〇キロを航行中、船尾から海水を汲み上げようとして揺れる船から海に落ちた。必死に助けを求めたが誰も気づかず、船はそのまま行ってしまったという。

山中君は仕方なく海に浮いていたが、突然、巨大なマンボウが近づいてきたので、これ幸いと背中によじ登った。マンボウは暴れまわったが、山中君が背ビレにしがみついて離れなかったため、そのうちにおとなしくなった。約一時間後、一宮丸はようやく山中君がいないことに気づいて捜索したが、さらに約一時間後、マンボウにまたがって手を振っている同君を発見、ロープで船上に引き揚げたという。

（「読売新聞大阪版」五月一日）

朝日新聞社

▲この年の水着は、ウエスト切り替え型が流行。

対向列車に吸いこまれ、乗客が窓から転落

〔浜松発〕すれ違った電車の風圧に吸いこまれ、乗客が窓からふっ飛ぶという事故が東海道線で起こった。米原発上り清水行きの団体臨時列車に乗っていた、静岡県清水市の剣持武男さん（四九）は、気分が悪くなったため、窓から身を乗り出すようにして風にあたっていた。ところが下り電車とすれ違った際、この電車の風圧にまきこまれて転落し、電車にはねられて死亡したもの。剣持さんが、慰安旅行で北陸方面へ行った帰りの出来事だった。

（「朝日新聞」七月二六日）

死亡広告
「私事、このたび、無事死去つかまつり候……」

一一月一〇日、落語家の三遊亭金馬（七〇）が死んだ。ところがすでに八日の日付で、本人による死亡広告が新聞に掲載されていて、話題を呼んだ。

「私事、このたび、無事死去つかまつり候間、ご安心下されたく、ふだんの意志により生花、造花、お供物の儀かたくお断り申し上げ候。ふだんの頑固お許し下さい。何百年後、極楽亭か賽の河原の露葉にてお目にかかるやも知れず、皆様長生きして下さい。生前のお礼まで」

（「東京新聞」一一月八日）

この年の初もの
無線タクシーを、タクシー会社三〇社が共同営業

●**歯のマニキュア**　色は白、ピンク、紫など七色。

●**おみくじの自動販売機**　東京都渋谷区に登場。

●**有害図書制度**　指定第一号は「週刊実話」と「平凡パンチ」。

●**ピンク映画の前張り**　武智鉄二監督の「白日夢」で路加奈子が、鈴木清順監督の「肉体の門」で野川由美子が、ほぼ同時に着用して話題に。

●**歩け歩け運動**　健康ブームを反映して、まず東京でスタート。最初の会員数は、二〇〜三〇人。

渡部雄吉

▲ベトナム帰りの米兵でにぎわう横須賀市。（9月）

世界の動き

35歳でノーベル平和賞受賞 キング牧師、逮捕・投獄の日々

▲1964年12月10日、ノルウェーのオスロでノーベル平和賞を受けるキング牧師（左）。黒人のノーベル賞受賞は史上3人目。米国人としては12人目。 WWP

米国の黒人運動指導者、キング牧師へのノーベル平和賞授賞決定のニュースは、サルトルの文学賞辞退とともに世界を驚かせた。名声を得てもなおキング牧師は不屈の闘争を続け、通算三〇回以上も逮捕される。その数字は白人社会の反発のすさまじさをものがたる。

六四年まで人種差別は法律で認められていた

一九六四年（昭和三九）一〇月一四日、ノーベル賞授賞の知らせに一番驚いたのはキング牧師だったかもしれない。体調を崩して入院していた夫に代わり、コレッタ夫人は記者団にこう語った。

「候補にあがっていることは知っていましたが、……私には委員会が夫の努力を、それに値するものと考えてくれるとは思えませんでした」

わずか三五歳という、ノーベル賞史上最年少記録だったからではない。リンカーンの奴隷解放宣言から一世紀を経てなお黒人たちは差別と虐待にさらされ、彼らの解放闘争が白人社会の猛烈な反発を食らっている中での授賞だったからだ。

この頃、五〇年代なかばからの公民権闘争はひとつの節目を迎えていた。二五万人を集めた歴史的なワシントン大行進は六三年。そしてこの年七月、黒人たちの悲願だった新公民権法が成立し、人種平等が少なくとも法律上は保障された。

白人の暴力に唇をかんで耐え続けた「非暴力主義」

マーチン・ルーサー・キング・ジュニアは一九二九年、ジョージア州アトランタで生まれた。成績優秀な彼は一五歳でカレッジへ進み、一九歳で卒業。さらに神学校や大学院で学位を取り、二五歳で南部アラバマ州の教会の牧師となった。

一九五五年、彼は差別に抗議するバス・ボイコット運動を指導し、これをきっかけに公民権運動に身を投ずる。

その後の運動でも、彼はガンジーに学んだ非暴力を一貫して唱え続ける。しかし、白人たちの反撃はすさまじかった。秩序だったデモをする黒人にツバを吐きかけ、ビンやレンガをぶつけ、警官は高圧消火ホースで水をあびせ、警棒で滅多打ちにし、警察犬を噛みつかせたりした。それでも挑発に乗らず、屈辱と痛みに耐え、行進を続ける黒人たち……。アメリカ史研究者の猿谷要氏は、その光景に、「これが現実の姿なのだろうかと何度も自分の目を疑った」（『キング牧師とその時代』）と当時の印象を語っている。

人種を超えた闘士を襲った一発の凶弾

新公民権法成立後も闘いは続いた。抗議闘争を支援にいった先々でノーベル賞受賞者のキング牧師は再三逮捕・投獄され、逮捕歴は通算三〇回を超えたという。

だが六〇年代後半になると、非暴力や白人リベラルとの共闘路線に見切りをつけた若者たちが都市暴動を頻発させるなど、運動も分裂してゆく。そしてキング牧師はついにベトナム戦争批判の口火を

CORBIS-BETTMANN/PPS

▲ワシントン大行進の参加者約25万人を前に「I Have a Dream!（私には夢がある……）」と訴えるキング牧師。1963年8月28日。

外から見たNIPPON

社会学者リースマンの目に映った日本の大学人

佐伯　修

「周知のように、日本の大学は日本の文化全体がそうであるように、仲間うちに力点をかけ、またゼミナールや『デシ』すなわち特定の教授についた学生に力点をかけるという方向づけを持っている。（中略）そのような大学には強力な同窓会がうしろにひかえており、そこでは年齢秩序をきちんと守った『氏族』が形成されている」（リースマン『日本の知識人』、加藤秀俊訳）

右は、『孤独な群衆』や『何のための豊かさ』で知られるアメリカの社会学者、当時ハーバード大学教授のデビッド・リースマンが、この年の三月、ワシントンの「アジア研究者会議」で行った講演の一節である。彼は、三年前の昭和三六年に二ヵ月ほど日本に滞在し、学者・文化人はもとより、企業家や労組幹部、学生運動のリーダーまで、幅広い立場の人々と精力的に接触、対話を重ねた。妻との共著『日本日記』には、それらの日本人との対話と見聞が、つぶさに綴られている。この講演も、おもにその時の経験をもとに、アメリカの知識人に、日本のアカデミズムの特性を紹介したものである。

その中で、リースマンは、アメリカ社会には、読書を「男らしくない」行為とする考え方があるが、日本には、そのような"マッチョ主義"的な「反知識主義」はない、とか、アメリカの大学人の中には大勢いる「右翼」や「軍国主義者」は、日本の大学にはあまりいない、とか、「無意識の世界から人間の行動を考えようとする知的な風土」が日本にはまだない、などとも言っている。また、日本の知識人たちが、男だけの集まりが好きで、酒が入ると性格が豹変するのに呆れてもいる。

それらの中には、彼の誤解や見落としがないとは言えないし、当時と現在では、アメリカでも日本でも知的状況は大きく変わった。なにせ、この直後に、アメリカでも日本でも、学生運動の嵐が吹き荒れて、大学と知識人は大混乱におちいるのだから。

しかし、たとえば次のような指摘は、明らかに現在の日本の学界にもあてはまるのではないだろうか。

「古い日本の大学教授のひとつの特徴的なパターン（そういうパターンがこんにちでもなお残っているかもしれない）は、西洋の学者を一人みつけて、その著作を日本語に翻訳し、紹介者として生きるのである。そうすることによって、この大学教授はその西洋の学者の擬似的な『デシ』になることができるのであった」

▶一九〇九年、フィラデルフィア生まれ。

共同通信社

切るとともに、「我々は自分たちの目的を黒人のための何か特別の権利獲得ということに局限すべきではない」（「ベトナムを超えて」「世界」六七年一〇月号）と、人種の別を超えて貧困対策に取り組む必要を訴える。しかし六八年四月、彼は白人テロリスト、レイ・アールに狙撃され三九年の生涯を終える。暗殺の背後関係は明らかではないが、FBI長官・フーバーが関与していたという噂は消えない。

それから約三〇年。黒人の連邦議員や市長が誕生しても今や誰も驚かなくなった。その一方で、白人の根強い差別意識は決してなくなってはいない。こうしたアメリカの現実に対し、日本人は「建て前と本音のズレ」と見る向きが強い。「しかし、建て前が人々の心を変えたのも事実」と、猿谷要氏は指摘する。

「アメリカ人には正しいと信じた理想を守ろうとする志向が強く、三〇年前に比べると人種平等への意識はかなりの向上を見せていて、キング牧師などの犠牲が決して無駄にはなっていないことをものがたっています。そのことは、アメリカだけにとどまらず、世界平和への道を暗示していると言えるでしょう」

人種・民族問題は現在世界中で深刻化しつつある。日本もまた、決して無関係ではありえない。

PPS

▲キング牧師夫妻。コレッタ夫人は今も人々の尊敬を集めている。

マーチン・ルーサー・キング・ジュニア（1929〜1968）

米国の牧師。人種差別撤廃運動指導者。一九五五年、バス・ボイコット運動を指導して脚光をあびる。一九六六年、ノーベル賞受賞。一九六八年、凶弾に倒れる。

WWP

▶キング夫妻を先頭に五〇マイルを行進、モントゴメリーに着いたデモ隊。一九六五年三月二四日。

往きて還らぬ

共同通信社

▲8月17日　佐田啓二（37）
俳優。自動車事故で急死。岸恵子と共演した映画「君の名は」が空前のヒット。「秋刀魚の味」「彼岸花」などに出演。

共同通信社

▲8月21日　パルミロ・トリアッチ（71）
イタリアの政治家。第二次大戦中は反ファシズム運動を指導し、戦後スターリン批判に乗じて構造改革路線を提唱。

共同通信社

▲12月29日　三木露風（75）
詩人。16歳で処女詩歌集『夏姫』刊行。『廃園』『蘆間の幻影』などあり、童謡「赤とんぼ」の作詞でも有名。

共同通信社

▲12月29日　広沢虎造（65）
浪曲師。19歳で広沢虎吉に弟子入り。「馬鹿は死ななきゃ直らない」の名文句で知られる「清水次郎長伝」が代表作。

共同通信社

▲5月6日　佐藤春夫（72）
小説家、詩人。小説に『田園の憂鬱』『都会の憂鬱』など。昭和5年、谷崎潤一郎から夫人を譲り受け話題を呼ぶ。

共同通信社

▲5月8日　野村吉三郎（86）
日米開戦時の駐米大使。元海軍大将で外相、学習院院長などを歴任。昭和29年から参議院議員（自民党）。

共同通信社

▲5月29日　大野伴睦（73）
元自民党副総裁、衆議院議長。大正12年東京市議会議員に初当選、後に岐阜県から衆議院議員に当選13回。

共同通信社

▲7月9日　阿部真之助（80）
NHK会長。元毎日新聞主筆。吉田内閣の時、勅選議員への誘いをガンとして受けず、"野人"の象徴と言われた。

共同通信社

▲4月5日　三好達治（64）
詩人。『一点鐘』『駱駝の瘤にまたがつて』などの詩集があり、北原白秋以後の詩の第一人者と言われた。

共同通信社

▲4月26日　堤康次郎（75）
元衆議院議長。早大卒業後、箱根土地会社を創設。その後、西武鉄道社長などを歴任し、一代で堤財閥を築いた。

▼4月5日　D・マッカーサー（84）
元連合国最高司令官。在任中、憲法改正、国家警察予備隊（後の自衛隊）の創設など、戦後日本の基礎を築いた。

共同通信社

▲2月19日　尾崎士郎（66）
小説家。昭和8年に発表した『人生劇場・青春篇』がベストセラーに。以後続篇を7篇書き継いだ。

▲2月28日　辰野隆（75）
仏文学者。仏留学後、東大に初めて仏文学の講座を開き、渡辺一夫、小林秀雄、中村光夫ら多くの人材を育てた。

WWP

ミニ事典
1964年のキーワード

道徳の指導資料
小・中学校の道徳の時間に教師が使う指導用資料。この年二月一日に文部省が発表し、三月に約八〇万部を配布。前年七月の教育課程審議会答申を受け、従来の学習指導要領を補って、運用面での具体性に留意した。たとえば、愛国心の指導として小学三年で「日の丸」、中学一年で小泉信三の「国を思う心」を教えるなど、指導案を具体的に示した。

産業スパイ
企業秘密の技術や開発計画などをさぐり出すこと。東京地検特捜部は二月二六日、ロシア人テレンチェフら三人を恐喝・脅迫などの疑いで、また翌月には大日本印刷・凸版印刷の社員四人を盗品収受などの疑いで逮捕。一時は日本初の産業スパイ事件かと話題になったが、結局金銭めあての恐喝だった。

進行性筋萎縮症
筋組織が次第に萎縮して身体の自由が奪われる病気。進行性筋ジストロフィー症とも。乳幼児期に発症し、二〇歳代で死亡することが多い。三月一五日、東京で「全国進行性筋萎縮症児親の会」が結成され、国に対し、特別の施設を設置するように陳情。五月六日、厚生省は二ヵ所の国立病院に専門病床の設置を決めた。

東大宇宙航空研究所
宇宙に関する研究とロケット開発のため、東京大学に設立された全国大学共同利用研究所。東大の航空研究所と生産技術研究所が合併して四月一日に発足。糸川英夫らの観測ロケット研究を継承し、昭和四五年には科学衛星第一号の打ち上げに成功、五六年には独立して文部省宇宙科学研究所（宇宙研）となった。

共同通信社

▲IMF・世銀総会で挨拶する池田首相。

IMF八条国
国際収支のいかんを問わず為替取引を制限してはならないというIMF（国際通貨基金）協定第八条の義務を履行する国。日本は、IMF理事会の決議を受け、この年四月一日に仲間入り。ほぼ三〇年ぶりに、円は主要通貨と並んで世界市場で交換可能となった。

生ワクチン
感染症の予防のために生体に投与される弱毒化された病原体。昭和三五年に小児麻痺が流行した際、厚生省はその有効性を確認、この年の四月一六日の改正予防接種法の公布・施行を待って、小児麻痺予防に対してはソークワクチン（不活性化した病原体）にかえて、生ワクチンを使用することを正式に決定した。

IMF-JC
五月一六日に発足した国際金属労連日本協議会。電機労連・造船総連・全国自動車・全機金の四単産が中心となり、国際労働運動との連帯をめざした。翌年以降、鉄鋼労連・自動車労連なども参加、約九四万人が加盟する大組織となり、春闘相場には「JC賃闘」を結成、大きな影響を与えた。昭和五〇年に全日本金属産業労働組合協議会（金属労協）と改称。

消費科学センター
主婦連副会長・三巻秋子らが、商品検査や消費者行政・立法の研究を行う団体として五月二五日に設立した財団法人。消費者啓発運動を「より科学的に、より組織的に」行うのが目的。六月二〇日には実践活動組織として消費科学連合会を結成、機関紙「消費の道しるべ」の発行、セミナーなどを実施。また比較テストなどを行って商品の安全性を追求し、行政への反映につとめた。

消費科学センター提供

消費科学センター
消費の道しるべ
消費科学連合会
消費科学連合会結成式
百名の主婦が集合

▲消費科学センターの機関紙第1号。

破壊活動防止法（破防法）
暴力主義的団体の規制、暴力主義的破壊活動に対する刑罰などを定めた法律。人権侵害のおそれを主張する強い反対運動の中で、昭和二七年に成立。この年五月三〇日、東京地裁は、この破防法を三無事件（三六年）に対して初めて適用、一三被告中八被告に有罪判決を下した（五〇年、破防法に関しては無罪確定）。

新ココムリスト
ココム（対共産圏輸出統制委員会）の会議で決定された共産圏諸国への新たな輸出禁止・規制対象品目。通産省は六月一五日、音速測定装置などの新品目を追加した改定リスト、計一五五品目を発表した。平成元年以降のソ連解体、東欧変革によって対象品目数は大幅に減少している。

公職選挙法改正
七月一〇日から施行された衆議院議員の選挙区別定数と選挙運動に関する規定の改正。定員五～八人になる五選挙区を分割して定数を四八六人に増員。また選挙運動中の連呼行為の時間延長、テレビによる経歴放送の許可、公営ポスター掲示板の増設や、選挙当日の活動禁止、供託金引き上げなどが定められた。

インテルサット
全世界を結ぶ商業通信衛星網を確立するために設立された機関、国際電気通信衛星機構のこと。八月二〇日、ワシントンに日・英・米など一一ヵ国代表が集まり、暫定的に発足（正式発足は昭和四八年）。四〇年四月に静止衛星アーリーバードの打ち上げに成功、四三年には全世界をカバーする通信衛星網を完成させた。

スモン
亜急性脊髄視神経症。この年一一月二二日、下痢、下半身のしびれ、失明をともなう原因不明の奇病が各地に発生していると新聞が報道、「スモン」と名づけられた。昭和四五年整腸剤キノホルムが原因と特定され、製薬会社と厚生省の安全性へのずさんな認識が引き起こした薬害事件であることが明らかになった。厚生省は四五年にキノホルムの発売を中止したが、その間、スモン患者は一万人以上にも達した。

共同通信社

▲破防法初適用の三無事件・川南被告。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1964

CONTENTS

●特集
金一六、銀五、銅八の大健闘！ 東京五輪で日本勢を支えた秘密……2
新潟地震 鉄筋アパート横倒し 露呈した産業都市の“もろさ”と恐怖……6
大量・高速輸送時代の幕開け！ 新幹線「ひかり」、四時間で走る……27
三五歳でノーベル平和賞受賞 キング牧師、逮捕・投獄の日々……38
●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する366日……10-30
女たちの肖像 『氷点』と三浦綾子 稲葉真弓……9
勝者・敗者 王貞治、五五本目の本塁打 阿部珠樹……9
証言・あの日この日 坪内祐三……15-31
20世紀博物館 世界のカバン館（東京） 桑原茂夫……17
「現場」を歩く 佐世保、原潜反対と米軍 山本徹美……26
美女倶楽部 伴田良輔……37
外から見たNIPPON リースマンと日本の大学人 佐伯修……40
●人物クローズアップ
石津謙介と“アイビー教”……20
●決定的瞬間
岡村昭彦が切りとったベトナム戦争……22
●美の出会い
「ミロのビーナス」展に一七二万人……24
ベストセラー……18
スターと名場面……18
モノ語り'64……19
俄楽多市……36
往きて還らぬ……41
ミニ事典……42

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 シド・プロ 有マックス 有マライカ 鍵和田良輔 小松邦宏 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
池田忠 岡村昭彦 影山光洋 沢田教一 浜口タカシ 渡部雄吉 朝日新聞社 NHKサービスセンター オリオン・プレス 共同通信社 時事通信社 新華社 中国新聞社 中国通信社 テレビ朝日 日刊スポーツ ノーボスチ通信社 PPS通信社 フォート・キシモト CORBIS・BETTMANN 毎日新聞社 マガジンハウス 読売新聞社 WWP 石津謙介 京都大学体育会山岳部 消費科学センター 帝都高速度交通営団 勅使河原プロダクション にっかつ

「日録20世紀」20号までの刊行スケジュール
（毎週火曜日発売。変更になる場合もあります。なお、刊行日は首都圏基準です）

創刊号（2月18日号）1959［昭和34年］好評発売中●世紀のご成婚！●巨大「伊勢湾台風」の猛威●マイカー元年！わが家に車がやって来た●フルシチョフ首相の“歴史的”訪米

第2号（2月25日号）1964［昭和39年］好評発売中●東京オリンピック開催！●新潟地震と産業都市のもろさ●新幹線「ひかり」、4時間で走る●米キング牧師にノーベル平和賞

次号（3月4日号）1945［昭和20年］2月18日発売●マッカーサーの2000日●広島と長崎に原爆！死者は31万人●8月15日の「天皇と国民」●ポツダム宣言と米ソ冷戦の始まり

第4号（3月11日号）1970［昭和45年］2月25日発売●三島由紀夫、割腹自殺！●EXPO '70で日本も大国の仲間入り●「よど号」ハイジャック●ウーマン・リブ、全米で10万人デモ

第5号（3月18日号）1963［昭和38年］3月4日発売●ケネディ暗殺事件！●「水俣病とチッソ」に決定的証拠●ホンダ車などオートバイ世界一に●えん罪晴れた“昭和の巌窟王”

第6号（3月25日号）1958［昭和33年］3月11日発売●巨人軍・長嶋茂雄デビュー！●若者にロカビリー旋風●流通革命！スーパー・ダイエー1号店●ド・ゴール、仏大統領に就任

第7号（4月1日号）1972［昭和47年］3月18日発売●連合赤軍「浅間山荘」事件●日中国交回復の“乾杯！”●27年ぶりに沖縄が日本に還る●テルアビブとミュンヘン五輪の流血

第8号（4月8日号）1980［昭和55年］3月25日発売●山口百恵が引退！●ついに日本車の生産台数が世界一に●衝撃の金属バット殺人事件と家庭内暴力●韓国光州事件の真相

第9号（4月15日号）1976［昭和51年］4月1日発売●角栄逮捕！政界に激震●山下家に五つ子ちゃん誕生●サービス革命！「クロネコ」走る●毛・周死去、文革がようやく終わる

第10号（4月22日号）1989［平成元年］4月8日発売●昭和天皇ご大喪！●吉野ケ里発掘と邪馬台国論争●消費税3パーセント、混乱と不安のスタート●中国で天安門広場の惨劇

▶第11号（4月29日号）1960［昭和35年］4月15日発売
“安保”で国内騒然●所得倍増計画発表●清張ブーム●アフリカ独立国続出
▶第12号（5月6日号）1961［昭和36年］4月22日発売
ケネディ、大統領就任●「金の卵」大モテ●アンネ発売●朴正熙、権力の座に
▶第13号（5月13日号）1962［昭和37年］4月28日発売
「無責任男」大人気●東京が1000万都市に●YS11が翔ぶ●キューバ危機
▶第14号（5月20日号）1965［昭和40年］5月6日発売
沖縄とベトナム戦争●日韓基本条約可決●ジャルパックに人気●北爆開始
▶第15号（5月27日号）1966［昭和41年］5月13日発売
ビートルズ来日●航空機事故が相次ぐ●巨大タンカー登場●中国で文革
▶第16号（6月3日号）1967［昭和42年］5月20日発売
ツイッギー来日●美濃部都政スタート●公害列島ニッポン●初の心臓移植
▶第17号（6月10日号）1968［昭和43年］5月27日発売
日大紛争と全共闘●若者と「あしたのジョー」●3億円事件●プラハの春
▶第18号（6月17日号）1969［昭和44年］6月3日発売
日本、GNP世界2位●安田講堂攻防戦●「男はつらいよ」●アポロ、月に
▶第19号（6月24日号）1940［昭和15年］6月10日発売
配給制、回覧板と統制強化●日独伊三国同盟●紀元2600年祝賀●パリ陥落
▶第20号（7月1日号）1941［昭和16年］6月17日発売
真珠湾攻撃●ゾルゲ逮捕●李香蘭、日劇で歌謡ショー●独ソ戦が始まる

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

雑誌 23704-2/25 T1023704020555
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社